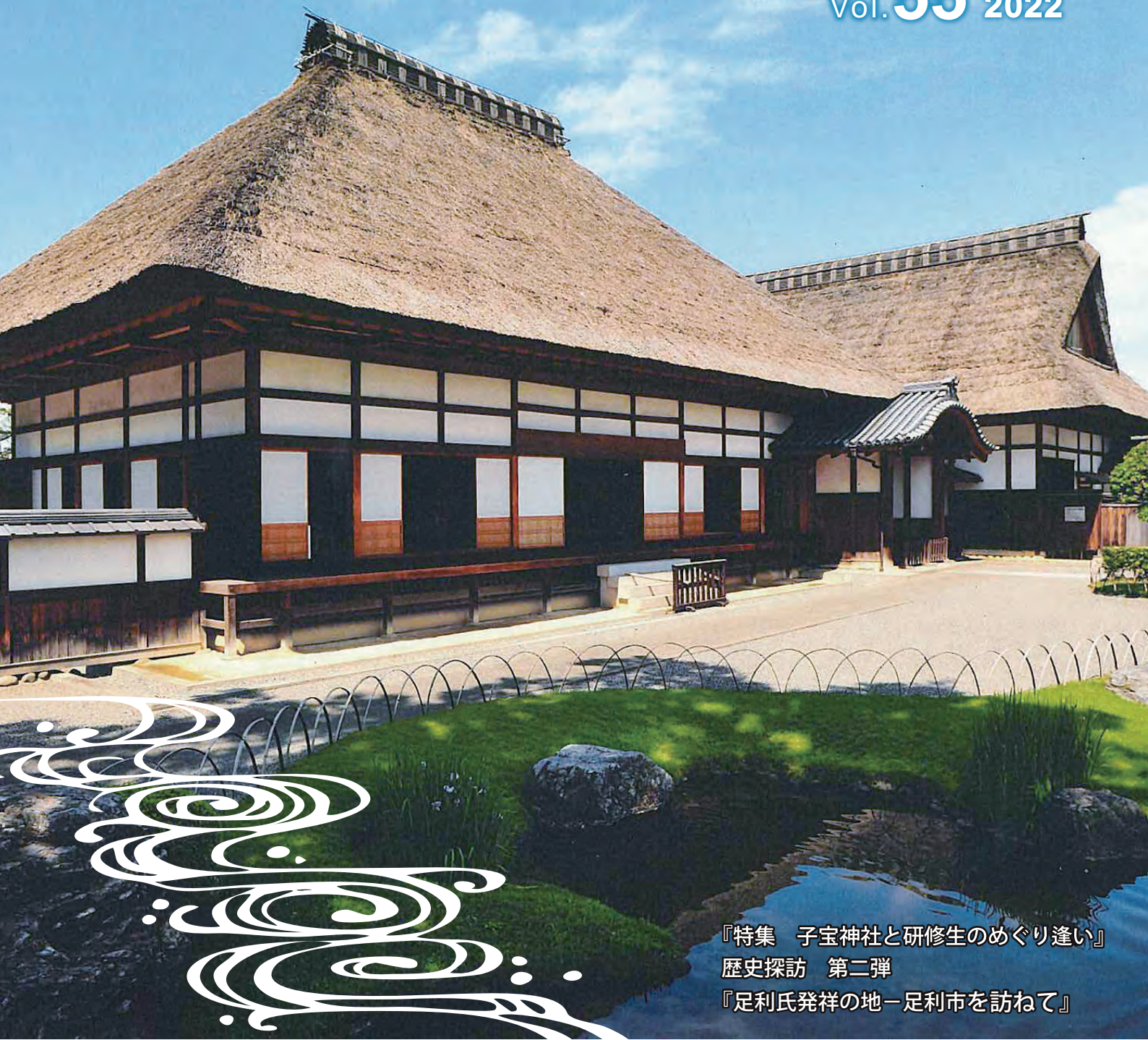


研修みずれわ

Vol. **55** 2022



『特集 子宝神社と研修生のめぐり逢い』
歴史探訪 第二弾
『足利氏発祥の地—足利市を訪ねて』



地方共同法人

日本下水道事業団

Japan Sewage Works Agency

研修センター

Contents



写真: 栃木県足利市総合政策部秘書広報課提供
(足利学校跡 方丈)

巻頭言	渡辺 志津男	日本下水道事業団	1
コロナ禍における新しい取り組み	水津 英則	日本下水道事業団	2
新任のご挨拶と新しい研修の取り組み	橋本 康弘	日本下水道事業団	3
受講体験による人のわ・みずのわ	石山 哲	山形県米沢市	5
研修業務開始50周年を迎える思い	粕谷 直樹	埼玉県	6
	鈴木 壯一	神奈川県藤沢市	7
	片岡 真一	千葉県市原市	8
	今村 貞則	愛媛県西条市	9
オンライン研修講師体験記	長沼 輝伸	岩手県	11
研修生だより	野田 萌	北海道札幌市	13
	佐藤 大介	岩手県	14
	谷津 なつき	(公財) 岩手県下水道公社	15
	内藤 浩一	神奈川県箱根町	17
	工藤 浩昭	岐阜県瑞穂市	18
特集 「子宝神社」命名ストーリー	大宮司 綾	宮城県松島町	20
特集 子宝神社と研修生のめぐり逢い	齊藤 裕子	北海道北見市	22
	石黒 栄	千葉県千葉市	23
	志垣 摩美子	熊本県玉名市	24
	江崎 豊	福岡県福岡市	25
	溝口 憲太	福岡県福岡市	26
	太田 ひとみ	熊本県熊本市	27
親子で研修受講体験記	山脇 崇弘	宮崎県日南市	29
同窓会ニュース 「宮山福会」	阿部 真二	山形県山形広域環境事務組合	30
	野口 直希	福岡県福岡市	31
	木村 健士朗	熊本県熊本市	32
歴史探訪 第二弾 『足利氏発祥の地—足利市』	新井 正章	栃木県足利市	34
日本下水道事業団研修センターの新型コロナウイルス感染拡大予防対策について			36
日本下水道事業団研修センターの新寮室棟建設工事進捗状況			38
令和4年度JS研修センター研修計画調査等の集計結果について			39
令和4年度研修実施計画			43
下水道技術検定及び下水道管理技術認定試験について			45
研修センターの歩み			48
編集後記			巻末

新年を迎えて

日本下水道事業団

理事 渡辺

志津男



会し、同じ課題に取り組み、
寝食をともにする中でその
後のネットワークも構築さ
れるところにあると思っ
ています。携帯電話、スマ
ホが当たり前の時代ですの
で、30年前と比べれば、研
修終了後のネットワークの
維持も容易になっていろ
と思います。

入れることとしています。
昨年度と今年度は、コロ
ナ禍で研修生の受け入れ実
績は極端に落ち込みました
が、J S 発足以来の累計で
は、これまで8万人以上の
皆さんに研修を受講してい
ただいています。

11月1日に理事（研修・
国際戦略、東日本本部長）
を拝命しました渡辺です。
どうぞよろしくお願い致し
ます。

私は、これまで約40年間、
主に東京都の下水道事業に
携わってまいりました。そ
んな私ですが、実は30年以
上前に、下水道事業団（以
後「J S」という。）の2
週間程度の宿泊研修「処理
場の設計」を受講しました。
当時は、寮室も4人部屋で、
2段ベッドの上下に研修生
が寝るといふスタイルでし

た。今のように携帯電話も
なく、家との連絡も寮内に
あった公衆電話で取るほか
はなかったこともあり、研
修生同士が24時間寝食を伴
にする中で、仲間意識が強
くなったことを思い出して
います。

30年以上の歳月を経て、
J S の研修担当理事を拝命
することになり、感慨深い
ものがあります。

昨年からコロナ禍で殆ど
の研修が中止となり、研修
センターの担当職員はさぞ
落胆し、モチベーションを

下げているだろうと思っ
ていましたが、就任時に研
修センターの現場を見て職
員の話を聞くと、いかにし
たらコロナ感染を防止しな
がら効果的な研修ができる
のだろうか日々積極的に
検討を重ねているようで、
プロとしての意気込みを
しっかりと持ち続けている
ことに頼もしさを感じまし
た。

私はJ S の研修の基本
は、やはり宿泊研修であり、
全国から下水道事業を担う
若手、中堅の職員が一同に

この挨拶文をまとめてい
る令和3年12月初め、わが
日本ではコロナの状況がや
や落ち着いてはおります
が、オミクロン株という新
たな懸念すべき変異種の出
現も心配され始めました。
そのことから完全な終息
にはかなりの時間がかかる
と推測され、コロナとの共
存、With コロナを前提
に研修センターの運営も考
えざるを得ません。

来年度からは、現在建設
中である新寮棟も完成し、
研修環境も格段に向上しま
す。J S では、引き続きさ
らなる研修環境の整備、向
上に努めてまいりますの
で、こんな研修をやってほ
しい、こんなふうな研修を
進めて欲しいなどの忌憚の
ないご意見、ご要望などが
ございましたらお気軽にお
寄せください。

J S は、これからも下水
道事業に関する地方公共団
体のソリューションパート
ナーとして、皆様の人材育
成を懸命にサポートさせて
いただきます。ぜひ今後と
もJ S 研修事業をご活用く
ださいますよう、よろしく
お願い致します。

コロナ禍における新しい取り組み

日本下水道事業団研修センター

所長 水津 英則



平素は、日本下水道事業団（J S）研修センターへのご理解とご協力を賜り、皆様方には大変感謝申し上げます。

令和3年度のJ S研修センターでは、緊急事態宣言解除後、必要な感染防止策を講じながら、順調に研修を実施いたしております。研修生の皆様にご協力をいただきながら、安心して研修を受講いただける環境を提供させていただいております。

とはいえ、世界の状況を考えると、まだまだコロナについては油断できません。仮に再び緊急事態宣言

が発出されるなど集合研修の開催が困難になった場合、それでも地方公共団体において人事異動や採用がある以上、下水道事業に関する研修のニーズは常にあります。当研修センターでは、このニーズに応えるべく、今年度から本格的にライブ型のオンライン研修を実施しております。下水道事業入門編、計画設計や経営に関する研修を中心に4月から12月までに60を超える研修を実施しまして、1000名を超える皆様を受講いただいております。

オンライン研修ではZ O Mを使用するため、まず

申込みいただいたすべての方に当日の接続不良を回避するための事前接続テストをお願いしています。当初は職員が個別に確認を取っておりましたが、業務負荷が大きく、現在はZ O Mの使用説明動画を流し、確認いただくことで省力化しています。また、紙資料の事前送付や書画カメラなど研修生がモニター越しでも資料が見やすくなるような機器の整備を行い、その結果、アンケートでは9割以上の方に研修効果が高く満足との回答をいただいております。

オンライン研修はコロナ

禍における新たな取り組みとして実施した研修ではありますが、今後は、職員数の関係で研修に行けない、育児中で宿泊研修は参加できないといった事情の方に参加いただく研修として位置づけられます。現在実施しているライブ型オンライン研修に加え、ハイブリッド研修（集合型研修＋ライブ研修）・ブレンドディットラーニング（座学部分をライブ研修、演習等を集合型研修）・オンデマンド研修（録画した研修を一定期間いつでも視聴可能）を試行し、いろいろな方が幅広く研修に参加できるよう、メニューをそろえようと思っております。

ただ、オンライン研修の問題点としては、当研修センターの特徴である演習、実習、ディスカッションといった実務に直結したカリキュラムが実施しにくいこと、長期間の研修は目の疲労等が生じてしまうこと、

集合研修以上に実施に手間と経費がかかることなどに加え、集合研修では当たり前である研修生同士の交流が難しいことが挙げられます。同じ研修を受講し、その後長期間にわたり交流を続け、様々な場面で意見交換を行い、業務に役立てているという研修生が全国に多数おります。オンライン研修での交流についても工夫はしておりますが、今後は集合研修とオンライン研修のそれぞれの特徴を生かした研修計画を立案し、提供していくことが重要と考えております。

令和4年度は女性専用フロアを備えた新寮室棟の運用が開始されます。地方公共団体の皆様にそれぞれのニーズに合った研修を選ばただけできるよう、研修センターは進化してまいりますので、ご参加をよろしくお願いたします。

新任のご挨拶と新しい研修の取り組み

日本下水道事業団研修センター

研修企画課長 橋本 康弘



平素より日本下水道事業

団の研修業務に格段のご理解とご協力を賜りまして、大変ありがとうございます。私は、令和3年4月に研修企画課長に着任しました橋本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、事業団プロパー職員でして、様々な部署を周り、研修センター業務は初めてですが、技術開発部に平成19年から22年度までの4年の間、勤務しておりましたので、戸田には2回目の勤務となります。また、平成6年度に実施設計コース「管きよ設計Ⅰ」、その

翌年の平成7年度に「処理場設計Ⅱ」、平成13年度に「計画設計」を地方公共団

体の皆様と一緒に勉強、生活を共にしたOBでもございます。研修センターには非常になじみ深い思いで4月着任しました。

月日がたつのは早いもので、もう年度末を迎えての業務と次年度の準備に取りかかり、あつという間の研修業務でございました。

そして、今年度は、昨年度同様に新型コロナウイルス感染拡大による影響で研修の延期、中止せざるを得ない状況下になりましたが、11月以降はある程度落

ち着いた運営が出来て安堵しているところです。

昨年度と異なることは、緊急事態宣言だけでなくまん延防止等重点措置が創設され、各都道府県、市町村単位に発出されたため、新型コロナウイルス感染予防の観点から戸田の研修だけでなく地方での研修も含めて、開催の延期さらには中止せざるを得ない状況となりました。

時期により、細かく発出地域が変更され、それも直前の対策本部で決定されるため、受講予定の皆様への延期、中止連絡が直前となってしまい大変ご迷惑を

おかけする事態となつてしまい誠に申し訳ございませんでした。

そのような状況のため、皆様の受講機会の確保を図ることを目的に今年度からWeb会議サービスを利用したオンライン研修を開催させていただきました。

オンライン研修は、昨年度に国から受託した研修内で実施した経験しがなく、ほぼ初めての状態であったため、年度当初は撮影場所の確保、機材の準備、皆様へのお知らせ、接続テスト、研修当日の実施サポート等で慌ただしい対応となり、皆様へはご迷惑をおかけしてしまいました。そのような状況でも皆様のご協力も頂きましたお陰で、なんと本日まで大きなトラブルもなく実施することが出来ました。

半年間のオンライン研修のノウハウを生かしまして、今年度10月より国からの受託で実施している「災

害対応力強化に向けた人材育成研修」では、接続数200数を超える研修も複数回実施することが出来る状況になってきました。

その中でも岩手県様、熊本市様の実施事例を講義させていただきました「BCP」をテーマにした研修におきましては接続数約200台、受講団体数約190団体、受講者数約380名もの皆様に受講をして頂くことが出来ました。これは驚きを隠せません。この状況を受けましてWeb会議サービスの契約仕様を見直し、今後は最大なんと500台も接続することが可能にするようにいたしました。

戸田で開催する研修では物理的な制約で不可能な研修が、オンラインという方式では同時にこれだけの多くの受講が実施可能となり、このコロナ過を何とか乗り越える為に導入したサービスが、さらに別な研

修を皆様へご提供できるようにもなりましたので、今後はこのオンライン研修の実施を拡大するとともに、時間にとらわれずに研修を受けられるオンデマンド研修をさらに導入し、多様な研修を実施することにより、皆様へのさらなるサービス向上を目指して参ります。

オンライン研修を通してアンケートを実施し、多く聞こえてきたのが、研修生同士の密接な交流が出来なく残念であった、講師とよく長時間に熱く質疑応答が出来なく残念であったという声でした。オンライン研修を実施したことにより、戸田での集合研修の良さが浮き彫りになったところですが、戸田で実施する研修もよりサービス向上するため、女子受講生の増加と個室化を図るため新寮室棟を建設しておりますが、3月には竣工し、4月からご利用頂けるようになります

ので、次年度は是非とも戸田にお越し頂き集合して対面研修を受講して頂ければと思います。

最後に雑談とはなりますが、技術開発部の勤務時より、通勤の時間短縮と運動部職解消、ダイエットもかねて電車通勤から自転車通勤に切り替えまして、約片道25キロを約1時間10分掛けて通っております、現在も継続中です。

自転車通勤は、ダイエットや体力強化の為だけでなく、災害時の帰宅手段確保、新型コロナウイルス感染予防のため人混みを避けることも可能でありますので、自転車通勤はたいへんお勧めいたします。

今後とも日本事業団研修業務により一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



受講体験による 人のわ・みずのわ

出会いと人の輪



山形県米沢市上下水道部

下水道課長 石山 哲
(H10年度生)

この度は「研修みずのわ」第55号への寄稿のお話をいただきましてありがとうございます。お話をいただきました渡邊特任教授より、「米沢の歴史」もとのことでありましたので、はじめに米沢市の歴史について紹介させていただきます。

米沢市は山形県の最南端に位置し、福島県福島市と接しています。

鎌倉時代の米沢は、長井氏が米沢に本拠を置いたと伝えられます。その後、長井氏に代わり

伊達氏が置賜を領し米沢城下が整備されました。「独眼竜政宗」として戦国の世に名を馳せた伊達政宗も米沢城に生まれ、25歳までの青年期を過ごしました。江戸時代には、上杉景勝（戦国の名将・上杉謙信の後継者）が越後から会津を経て米沢に入封、重臣・直江兼統の指揮で城下が拡張され、現在の米沢市街の基盤が築かれました。以後、米沢は上杉氏（米沢藩）の城下町として発展し明治維新を迎えました。

中でも、第9代藩主上杉治憲（号・鷹山）による藩政改革が有名です。財政が逼迫していた米沢藩に、縁戚の高鍋藩秋月家から迎えられた鷹山は、率先して大倭約を行うとともに、数々の殖産振興政策を展開しました。そうした中で養蚕と米沢織物が特産品に発展し、藩財政と人々の生活が立ち直りました。また、藩校・興譲館を設立するなど教育にも力を注ぎました。困難な状況の下、「なせば成る」の精神で改革を成功させた鷹山

は、理想のリーダーとして高く評価されています。米沢藩主上杉家墓所などの国史跡や、国宝「上杉本洛中洛外図」・「上杉家文書」などの文化財が多く残り、「上杉の城下町」として多くの観光客が訪れます。

交通の面では、東北中央自動車道の福島大笹生ICから米沢北IC間（35.6km）が平成29年11月に開通し、福島〜米沢間が20分短縮されました。また、米沢市は米沢牛で有名ですが米沢ラーメンも大変おしく、白布温泉、小野川温泉など温泉も多くありますのでぜひお越しください。

さて、私が事業団の研修にお世話になったのは、平成11年1月の「管きよⅡ」で20年以上前になりました。下水道課へ異動して1年目でしたが、総代という役目もいただき、コースのいろいろな行事などお手伝いをさせていただきました。この様な縁から、研修担当の渡邊良彦先生には大変お世話になりました。

研修が終わり少し経った頃、渡邊先生から連絡があり、先生と懇意にされている、山形、宮城両県の方々との交流会「宮山会」への参加のお誘いをいただきました。

山形市の安達さん、山本さん、宮城県や関東の皆様はじめ多くの方々との出会い、楽しく交流をさせていただきまして心より感謝申し上げます。現在は、福島県の方々に加わり「宮山福会」となりました。昨年、今年とコロナ禍のため、山形県での開催が延期となり、大変残念に思っております。ぜひ、来年こそは山形で開催し、多くの皆様とお会いできることを楽しみにしております。

私事ですが、今年度定年退職を迎えます。この素晴らしい交流、人の和を大切にしながら、これからもお付き合いをさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願っています。

最後になりますが、今回私にとって節目の年に、貴重な機会をいただきましたことに感謝と御礼を申し上げますとともに、日本下水道事業団研修センターのますますの発展と関係者の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。



研修業務開始 50周年を迎える思い

半世紀を超え、次の半世紀に向かって

埼玉県下水道局下水道事業課

計画・公共下水道担当主幹 粕谷 直樹



この度、研修業務を開始して50周年を迎えるとお聞きし、研修業務に携わった一人として心よりお祝い申し上げます。また、この記念すべき「研修みずのわ第55号」への寄稿の機会をいただき、渡邊先生をはじめ研修センターの皆様にご感謝申し上げます。

皆さんご承知のとおり、研修センターは埼玉県戸田市にあります。先輩方から埼玉県で研修が開始された

当時は、JR埼京線が未開

通で戸田市内には駅がなく最寄り駅が西川口駅であったことや、出入り口は本県の荒川左岸南部流域下水道荒川処理センター（現・荒川水循環センター）で、教室はプレハブで寺子屋と呼ばれていたそうです。また、教室と宿泊施設との間には、旧堤があり雨が降れば泥濘に足を取られないよう通ったとも聞いております。その後、研修センターは、施設が拡充され、多いときは年間2千人程度の研修生が受講され、令和2年度には7万5千人を突破するなど日本の下水道の普及に大きな貢献をされてきて

います。

その中で、埼玉県職員が昭和から平成にかけて研修センターの講師陣として関りを持たせていただいたことは私達にとっても大きな誇りだと思っております。

私が研修センターに赴任したのは、平成25年度から平成26年度の2年間です。赴任した平成25年度は翌年に研修受講料値上げが決定してしまいましたので、研修生が値上がりしたあとも戸田に研修に行く価値があると信じてもらえようかな研修にしたいとの思いもあり、プレッシャーは大きいものでした。当時、渡邊良彦先生や長沢不二夫先生に助言

をいただき、研修センターの方々の協力により進めさせていただきました。担当コースでは、延べ251人の研修生との出会いがありました。本当に沢山の貴重な経験をさせていただけ이었습니다。

現在、新たな寮棟の建設が進んでいるとお聞きします。コロナ禍において研修センターの方々も細心の注意を払い運営されているかと存じます。その中で、職場が戸田への研修に送り出していただけるのであれば、是非、戸田に行ってください。埼玉県に来てくださいます。そして、貴重な仲間を作ってください。

「みずのわ」の名前の由来は、滑らかな水面に落ちた一滴のしずくが広がる小さな輪が大きく広がる様から、研修生の輪が一人から全国へ、一都市から全国の都市へと大きくなつていくのが生まれるように、との期待を託したものだそう

です。下水道は、24時間365日決して欠かすことのできない社会インフラです。受講された皆様が研修を通してできた「みずのわ」

を大事にしていただければと存じます。最後となりますが、日本下水道事業団の研修センターの益々の発展と下水道

事業に携わる皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。結びの言葉とさせていただきます。

がんばれ

「みずのわ」げすいびと「たち」

神奈川県藤沢市

下水道部長 鈴木 壯一

(H17年度生)



の寄稿について、渡邊良彦 特任教授からお声掛けをいただき、感謝申し上げます。

この度は、日本下水道事業団創立、並びに研修業務開始50周年を迎えられるという事で、誠にめでたくございます。また、この「研修みずのわ」第55号へ

さて、研修開始後50周年という事で、半世紀にわたり、全国で7万5千人にも及ぶ下水道事業を推進する人材（今回の投稿にあたり、私なりに「げすいび」と称しています。）の輩出にご尽力を頂いたわけでありませう。

藤沢市においても、昭和30年から公共下水道事業を開始した経過もあり、研修開始初期の昭和48年（1973年）から、私も含めて約400名に及ぶ職員が研修に参加するとともに、最近では講師のお手伝いを含め、ともに学び・学ばせるお付き合いをさせていただいております。

現在では、様々な世代の受講生が下水道行政職員（藤沢のげすいびと）として、江の島が浮かぶ湘南の海を未来に引き継ぐ、ふじさわ下水道（当市下水道ビジョンでの呼び名）の建設や維持管理、並びに事業経営に至るまで、第1線で活躍させていただいております。

この50年の研修の成果として実を結んでおります。

それもこの事業団研修において、知識習得の座学だけでなく、演習や実習、ディスカッションや施設見学等の研修メニューにより、下水道全般の実務的なスキル習得ができ、また今では遠慮がちではある研修生間の密で熱い会話や議論、並びに講師の先生陣との交流などで「人のネットワーク」が培われ、げすいびと「たち」として成長できたこと

によるもので、大変感謝しております。

一方、これからの下水道事業は、暮らしや都市機能、水環境を守るため、将来にわたって、持続、進化することが不可欠です。特に、人口減少、厳しい財政状況、脆弱な執行体制など、事業を取り巻く環境が厳しさを増す中、事業の持続性の向上を図っていくためには、公営企業体として、「ひと・もの・かね」を一体的にマネジメントする事業運営が求められています。

昔の言葉から、「城は人組」と言われ、「城づくり」は、多様な職人が集まり、それを統括する棟梁のもとで、構築がされてきました。下水道事業の運営体を「城」に置き換えれば、同様に「職員」ひと（げすいびと）が礎となり、組織力を向上させ、共通したビジョンのもとで、「下水道公営企業体」城をしっかりと運営していくことに例えられ、

藤沢市下水道
マスコットキャラクター
「ふじまる」



その基礎は「ひと」である
考えは不変であると捉えて
います。

当市では、こうした持続
型事業運営への進化に向
け、努力しているところで
すが、各自治体にも目を向
ければ、下水道事業運営の
課題は様々であり、その担
い手となる「げすいびと」
づくり（人材育成）を持続
的に進めていくことは根幹
の課題です。

そこで、「今こそ」、半世
紀に渡り、社会情勢の変化
に順応して、第1線で活躍
できる人材、専門性を業務
に活かす総合力（経営力）
を有する職員（アップデー
トするげすいびと）の育成
を実践してきた事業団の研

修の役割がクローズアップ
されます。

研修センターでは新寮室
棟の開設も間近にせまり、
研修環境と生活環境の充実
が図れるとお聞きしており
ます。下水道技術の向上や
養成、訓練を目的とした唯
一の研修機関として、より
一層、未来を担う「げすい
びと」の育成・継承にご尽
力いただきますよう期待し
ております。

結びに、日本下水道事業
団研修センターのますます
のご発展を祈念するととも
に、今回貴重な機会を頂き
ましたことを感謝申し上げ
ます。

『がんばれ「みずのわ」
すいびとたち』



JS研修への思い

千葉県市原市

上下水道部次長 片岡 真一

(H10年度生)



筆させていたいただいております。

私はこれまで、2度ほど
JS研修を受講させていた
だきました。1度目は、平
成10年度に受講した「実施
設計コース 管きよⅡ」で
あり、この研修が渡邊先生
との出会いとなりました。

研修に先立ち、コース担
当教授として職場にお電話
をいただき、研修生の中か
ら選出される幹事等のうち
「会計担当」を打診され、
お受けしたのがご縁の始ま
りでした。

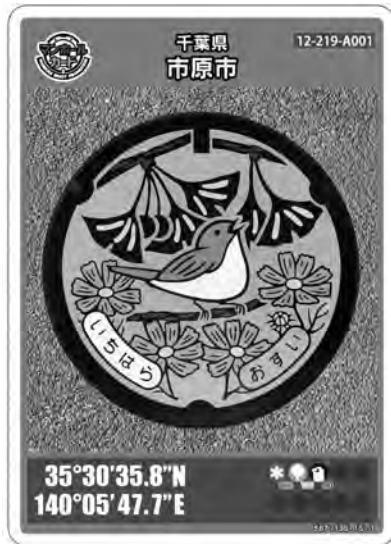
研修においては、毎日の
実践的なカリキュラムの受
講はもとより、幹事特権と
して放課後は度々、先生と

講師の方等との打合せや交
流の場に同席させていただ
き、先生のお人柄により大
変和んだ雰囲気の中で、非
常に多くの貴重な勉強をさ
せていただき、今思えば夢
のようなひと時であったと
感じております。

また、全国各地から集
まった研修生同士の意見交
換や情報交換も、談話室等
で毎晩遅くまで活発に繰り
広げられ、仕事の監督業務
における苦労話や会計検査
の体験談などを語り合った
ことを覚えております。そ
して、いずれの場面におい
ても、私の肝臓はフル稼働
であったように記憶してお
ります。

2度目の研修は、平成16
年度に受講した「実施設計
コース 処理場Ⅰ」であり
ました。渡邊先生は担当教
授ではいらつしやらなかつ
たのですが、私が参加して
いることをお気づきにな
り、久しぶりの再会を大変
歓迎してくださって、お忙

はじめに、日本下水道事
業団は来年初立50周年を迎
えられるとのこと、誠に
めでとうございます。その
記念すべき年の「研修みず
のわ」の発刊に際し、「研
修業務開始50周年を迎える
思い」をテーマに渡邊良彦
特任教授から寄稿のご依頼
をいただき、正直驚きなが
らも大変光栄なことと捉
え、かなり昔のこととなり
ますが、充実したJS研修
生活を思い返しながら、執



しい中お誘いいただき、再び楽しい席を設けてくださりました。この研修は、本市の新規終末処理場の着工の年に、土木・建築担当として受講させていただいたものであり、当時の私にとつては甚だ専門性の高い内容でしたが、お陰様で完成まで一貫して建設に携わり、無事供用を迎えることができました。

その後、私は下水道を一旦離れ、しばらく畑の違う部署に従事しておりましたが、現在は管理職の立場となつて、再び下水道に関わっております。私が担当者であった頃は、本市にお

いても整備・普及促進が中心の時代であり、如何に優れた下水道施設を低コストで建設するか、会計検査の受検も想定しながらそのスキルを磨くために日々奮闘しておりました。しかし、人口減少が進み経営環境が厳しくなつて、加えて施設の老朽化も顕著となつた現在においては、未普及対策に注力しつつも、コスト感覚をもつて今ある施設を如何に安全に長く、そして効率的に賢く使っていくかがより重要となり、本市においても下水道ストックマネジメント計画を策定して、施設の予防保全に鋭意取り

組んでいるところです。今後の下水道職員には、このことに対応できるスキルが求められますが、本市においてはまだまだ人材育成が十分ではない状況であり、全国の自治体においても同じような課題を抱えているものと推察します。

J S 研修センターにおか

れましては、実用的な研修を様々な角度から企画・立案され、実践されているところでありますが、現場のニーズが多様化している今、その期待度は増々高まっていることと思えます。今後も、時代に即した下水道職員の育成に是非ともお力添えをいただけます

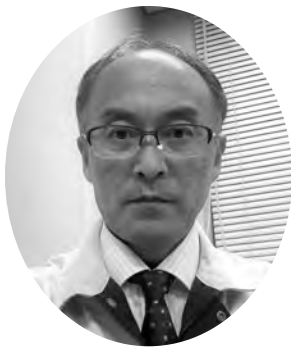
よう、よろしくお願い申し上げます。結びに、日本下水道事業団の更なるご発展と、研修センターの皆様、そして研修生・卒業生皆様のご健勝を心よりお祈りいたします。

事業団研修を経た今、思うこと

愛媛県西条市環境部下水道工務課

西条浄化センター所長 今村 貞則

(H元・H2年度生)



りする運びとなりました。昔から作文が不得手で、本文もまとまりの無いものになる恐れがありますが、ご了承頂きますと幸いです。

私は、平成元年度に東予市・丹原町公共下水道事務組合の職員となりました。採用を頂いた同年に、事業

この度、渡邊特任教授から「みずのわ」の寄稿依頼を頂き、本誌の一枠をお借

団研修として「処理場管理1」を、その翌年に「処理場総合管理」を受講致しました。当時事務組合では終末処理場の供用開始を控えている最中ではありましたが、新人だった私は必要なスキルの習得に努めながら、他県他市の方々との交





石鎚連峰と西条市

流の中で絆を深める、大変得難い経験をしました。

研修期間中は、講師の皆様、同期の研修生の方々、そして、実地研修先の兵庫県水上町や北条浄化センターの皆様には大変お世話になりました。

研修終了後においても、渡邊特任教授には様々なお気遣いを頂いており、私の結婚式にはわざわざ愛媛に來られて、ご出席下さりました。専門分野は、「管渠」と「処理場」で異なっておりますが、職場の諸先輩方からの繋がりを今もなお、大切に思ってください、感謝の念に堪えません。

私どもの自治体では、平成16年の市町村合併により、新西条市となりましたが、せっかくの機会ですので、この場をお借りして、地元西条の紹介をさせていただきます。

西条市は愛媛県東部に位置する人口十万人余りの中都市となっています。西日

本最高峰の山「石鎚」と、瀬戸内海「燧灘」に囲まれた穏やかな風土にあります。温暖な気候の我が市では、石鎚山系に降った雨から生成される良質な自噴水「うちぬき」が、農作物の豊穰と産業の発展に大きな恵みをもたらしています。

情報誌宝島社のアンケートで西条は、『住みたい田舎暮らしベストランキング』の全国1位を本年冠しています。暮らしに関わる社会インフラを担う者の一端として、誇りを感じずにはいられません。しかし年数が経つにつれ、住みよいこの町の環境を固持し、保ち続けるにあたり、かつて無い困難さを感じるようになりました。

西条市に限定した話ではありませんが、現在下水道事業を取り巻く環境は、施設の老朽化、地震・風水害対策、持続可能な社会の構築を踏まえた資源化の促進、技術の継承等々、問題

が山積されています。いずれもコストや人材を工面する必要のある喫緊の課題です。今後においても、日本下水道事業団の方々の助言やご指導、そして研修で交流のあった先進地からの情報等を得ながら、直面する課題に取り組んで参りたいと思います。

最後になりましたが、人見知りの私と他県・他市との仲立ちをして頂いた渡邊特任教授をはじめ、研修センターの皆様、西条市と関わりのある下水道事業団の皆様、並びにご一緒した研修生の皆様の、より一層のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。





オンライン研修講師 体験記

未来へつなぐ人材育成

岩手県県土整備部

北上川上流流域下水道事務所

施設整備課長 長沼 輝伸

(H10・H11・H23年度生)



日頃より、岩手県の職員に様々な面で御指導賜りました渡邊先生、加藤先生はじめ研修センターの先生方や関係者の皆様にあらためて感謝申し上げます。

また、今回「研修みずのわ」の執筆にお声をかけていただいた渡邊先生にお礼申し上げます。

私はこれまで3回研修センターで受講していますが、そのたびに、知識見分を深めるとともに、先生方や研修生と交流することで

より濃密な「ひとのわ」を作ることができ、今は私の大きな財産となっております。

研修センターは、貴重な技術継承・教育の場としてこれからも御発展されることを期待しております。

さて、私は渡邊先生との御縁があつて、研修の講師を何度か引き受けさせていただきましたので、その経験談を少し御紹介します。

はじめは、東日本大震災の経験から創出された「管

きよの液状化対策」コースの「東日本大震災を経験して」の講義を担当しました。

その内容は、東日本大震災発災時に県庁下水環境課で経験した業務内容等を「語り部」として研修生に伝えるものでした。専門的な技術の話ではなく、実体験を具体的にわかりやすく伝え、こういった災害が自分たちに降りかかってきたらどう対処すべきか、歴史を学んで考えてほしいという願いでお話をしました。岩

手県は約100年の間に4度の津波被害を受けていること、下水道の復旧には日頃維持管理に携わる維持管理業者さんをはじめ、数多くの支援が絶対に必要であること、そして自分の命を守ること（「必ず逃げる！死んではだめだ！」）を特に強調しました。

研修生からは、自分の街は海に面し、津波の脅威にさらされているが、実際何をしたらよいかわからないといった切実な悩みを、質疑応答で受けましたが、「わからないからこそ、歴史を学び、自分でコミュニケーションすること。」と答えにならない答えで返した記憶があります。

なお、このコースは平成24年度から平成28年度まで

の5年間継続され、その都度講師を務めさせていただきましたが、震災の「語り部」として少しはお役に立てたのではないかと思っています。

その後、再び渡邊先生から「管きよ基礎」コースを復活させるから、「管きよ設計のための事前調査」の講義を頼むよ！と依頼があり、再び講師を引き受けることになりました。

このコースに参加する研修生は、下水道業務経験がほとんど無い方が多いことから、資料の作成や説明の仕方には少し苦労しましたが、実体験によるお話が一番効果的だと考え、自分の数多くの(?)失敗談を、研修生限定でお話しました。他人の失敗談(他人の不幸)は、皆さんお好き

なようで、ぼんやり聞いていた研修生が目の色を変えて聞いてくれました。

日頃の業務においても同じですが、人に教えるということは、自分はさらに勉強して臨まなくてはならず、相手が理解できないというところは、自分の教えや指導に問題があるものだと、講義を通して痛感したところでした。

コロナ禍に入ってから、講師依頼があったものの、研修自体が取りやめになり正直ほっとしていたと

ころ、またまた渡邊先生から「今度はオンラインで研修を頼むよ！BCPに関連してのテーマだから、震災の経験談を講義してほしい」とあらたな講師依頼のお話がありました。しかも

その研修は、国交省から下水道事業団が研修業務を受託したもので、聴講者は200名(?)を超える予定であると高村次長から話を聞き、本当に引き受けてよいものか、引き受けなければよかつたというのが正直な思いです。



実際講義した感想は、オ

ンライン研修なので、研修生はパソコン画面に小さく映るだけで、しかもマスクをしていきますから、どのような反応をしているか把握できないため、話し方として、どう感情を込めてよいかわからず、うまく内容が伝わったかどうか非常に心配でした。相手の顔やしぐさを直接見ながら話すことがいかに大事なことか！

下水道事業団の研修もオンライン形式のものがだいぶ増えているようですが、これからの時代は、それが主流になっていくのか個人的には心配しています。受講する側は、出張せずに居ながら聴くことができますし、旅費も必要が無いという良い点は多いのでしようが、講師側は、オンライン

形式に対応できるパソコン操作やわかりやすい資料作成のスキルがさらに重要になるので負担は増えるのかなと思いますので、私としてはオンライン研修の講師はもう御遠慮したいです…。

以上、講師の体験談を述べましたが、あくまでも個人の見解を最後に。

「デジタルな研修よりも、研修センターに寝泊まりして、研修生や先生方と顔を突き合わせ勉強して、飲食を通じて懇親を深めて、人と人のつながりを作ることが出来るアナログ形式な研修の方が研修生にとって価値があると考えますし、今後も続けていくべきものがあると考えます。未来へつなぐ人材育成のためにも。」

研修生だより

下水道事業団研修を振り返って

北海道札幌市下水道河川局事業推進部

管路保全課 野田 萌

(H31年度生)



この度は「研修みずのわ」執筆の機会を与えていただきありがとうございます。お声がけいただきました渡邊先生に感謝申し上げます。

私は平成28年度に札幌市役所に入庁し、平成31年4月から下水道河川局管路保全課に配属され、下水道工事の設計や積算、現場管理



等の業務を担当しています。下水道事業団研修については令和元年度に「実施設計コース『管きよ設計Ⅱ』」を受講しました。

受講当時は下水道工事の職場に配属されてから4か月程度しか経っておらず、設計の方法はおろか下水道に関する知識も薄く、飛び交う専門用語の意味もよくわからない中での受講でした。講義内容についていけるかという不安、寮生活でほかの受講者の方々と打ち解けられるかという不安、真夏の埼玉で果たして暑さ

に耐えられるかという不安、そして全国各地の下水道にかかわる人達との新たな出会いや全国の美味しいお酒や名産品を頂けるのではという期待。そんな不安とワクワクが入り混じった気持ちで戸田市の研修センターへ向かったことを今でも鮮明に覚えています。

研修内容については管きよ設計の基礎的な考えから応用まで、さらには実験や施設見学など多岐にわたるボリューム満点のものでした。職場での普段の業務だけでは知り得ない、体

験できない内容も多くあり、管きよの設計についてじっくりと広く深く学ぶことができる大変貴重な機会であったと感じます。

また、講義外の時間についても、様々な地域から集まった受講生の仲間たちと毎晩のように全国各地から集まったお酒や名産品を嗜みながら各自自治体の状況や課題など語らったり、また、グループ発表の準備として各自自治体の課題を解決すべく班員の方々とディスカッションを重ねたり、最終日のテストに向けて集まって勉強したりととても有意義な時間を過ごしました。参加前に抱えていた不安など一瞬で吹き飛ばすほどに楽しく充実した研修期間を送ることができ、研修が終わってしまふのが名残惜しいとさえ感じるほどにあつと

う間の3週間でした。

現在、研修を受講してから約2年が経ちましたが、日常業務において設計時の考え方から数値の計算方法、様々な工法の特徴や土質のことまで、研修で学んだ知識が活かしていると実感する場面が数多くあります。これから先も研修で得た知識や経験を生かして業務に励んでいきたいと思えます。

最後になりますが、研修中大変お世話になりました渡邊先生をはじめ各講義でお世話になりました講師の皆様、共に研修を受けた受講生の皆様に感謝申し上げますとともに、下水道事業団の今後益々の発展をお祈り申し上げます。



事業団研修を受講して得たもの

岩手県県土整備部北上川上流流域下水道事務所

施設整備課技師

佐藤 大介

(R3年度生)



るとすごくやりがいがあり、やってよかったな、また研修に参加した際はやりたいたいと思っております。また、おしゃべり上手な渡邊先生と沢山お話できる特権もあり、すごく貴重な経験ができたこと心より感謝申し上げます。(あまり大きな声で言えませんが、歴代の研修生からのプレゼントを私にだけ見せて下さったことは2人だけの秘密です笑)

さて、本題の研修内容についてですが、本研修では、現場踏査から設計図・数量計算書作成、積算演習といった一連の設計積算業務の基礎を学び、最終成果品として、各自1本設計書を作成しました。この設計書は採用されて初めて自分の手で作成したもので、作り終わった瞬間の達成感はいえようがない程すごく、時折見返しては、研修時の大変さを思い返します。実

この度は、「研修みずのわ」の執筆にお声かけていただき、誠にありがとうございます。コース担当として下さった渡邊先生からお電話いただいたときは、正直こんな私でいいのかと恐縮しておりましたが、大変光栄なことだと思い、今回引き受けさせていただきました。

PRを。国内の世界遺産は2021年10月時点で合計25件。そのうち岩手県には3つの世界遺産があり、登録数は奈良県・鹿児島県と並び、国内最多です。県南平泉町に平泉「平泉―仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群―」、沿岸釜石市に「橋野鉄鉱山「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」、そして県北一戸町に御所野遺跡「北海道・北東北の縄文遺跡群」といづれも日本の歴史や文化、産業の発展を知る上で重要な遺産です。縄文時代から近代までの歴史の推移に思いを

寄せる体験ができる場所です。是非足をお運びいただけたらと思います。それでは、コロナ禍での研修の様子や、渡邊先生との思い出に触れて紹介させていただきます。

私は、令和3年度「実施設計コース管きよ設計I」を受講しました。「副幹事をしてほしい」という依頼の電話が渡邊先生との初めての会話で、当時採用された間もない私はどれほど大役なものかわからず、了承した記憶があります。副幹事の事は私の想像を超える忙しさでしたが、研修を終えた今、改めて振り返



開講式記念写真



令和3年7月27日、御所野遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、第44回世界遺産委員会（オンライン開催）にて世界遺産登録が決定しました。（写真：御所野縄文公園）

際に時間をかけて手計算を経験したことで、積算の手順や仕組を深く知ることができた上に、実際にコンサルから届いた数量計算や設計を正しくチェックできる

きつかけにもなりました。研修所では、教室と食堂は離隔距離を確保しての座席指定、消毒液や検温器の設置、また、4人部屋が1人使用になっていたりと、

新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐための対策を沢山していただきました。安心かつ快く受講できた反面、他の自治体の方々と意見交換があまりできなかったことは少し残念でした。一刻も早くコロナが収束することを祈り、また研修に参加する機会があれば、次こそは沢山意見交換したいなと思っています。

今回の研修で、学び得たものは沢山ありますが、その中でも、「下水道仲間」と出会えたことが私にとって一番の成果です。この出会いは、知識以上に大切なものであり、私の今後の良き財産になると思っております。

最後になりましたが、研修中大変お世話になりました。渡邊先生はじめ、講師の皆様、下水道事業団の皆様、同期研修生の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、益々のご活躍を心よりお祈りいたします。

「みずのわ」を繋ぐこと

（公財）岩手県下水道公社

業務課技師 谷津 なつき

（H27・H28年度生）



（第1回）の計3回受講させて頂いております。

どの研修も非常に勉強になり、また、様々な研修生や先生方と交流することができました。研修所での経験は、知識を深めるだけでなく社会人として大いに成長する機会になったと思います。

私個人の話をする前に、所属しております（公財）岩手県下水道公社と事業団研修との関りについても紹介させて頂きます。

この度は、「研修みずのわ」第55号の発行、誠にありがとうございます。また、執筆依頼のお声をしてくださった渡邊特任教授に、この場を借りまして感謝申し上げます。平成27年9月開催の「処理場管理Ⅰ（講義編）」をはじめ、これまで平成28年10月「処理場管理Ⅰ（実習編）」、平成30年11月「処理場設備の設計（機械設備）」

事業団の先生方には、研修のほかに当公社で毎年開催させて頂いている「公営企業会計研修」でも非常に

お世話になっております。
平成26年より外部講師として、加藤教授にはこれまで多大なるご指導を賜りました。

例年ですと、研修開催時期の一部がちょうど「さんさ踊り」という岩手県の伝統行事と重なってしまいました。加藤教授も楽しみにされていたとの事ですが、残念ながら新型コロナウイルス感染症のため令和2年から中止となっている状況です。

研修の在り方にも影響を及ぼしているこの感染症が、一刻も早く終息することを切に願っております。

さて、私個人の話に戻します。

研修に行く度、密度の濃い時間を過ごさせて頂いていますが、その中でも特に印象に残っている平成28年10月「維持管理コース 処理場管理Ⅰ（実習編）」の思い出について、紹介させて頂きたいと思えます。

2回目の研修ということ

で多少慣れたところもあり、勉強の他に交流も積極的にに行おうと思っていた矢先、出発前に、長沼課長（現：岩手県国土整備部北上川上流域下水道事務所施設整備課長）よりとある先生の紹介を受けました。

長沼課長と親交が深く、お世話になっている先生という事で、緊張しつつもお会いできるのを楽しみに研修へ出発しました。

お察しのとおり、この研修こそが渡邊先生との最初の出会いとなりました。

初めお会いした時の印象は、気さくで優しくそうな方という印象でした。

若輩者の私に、下水道事業や業界の話、これまでご活躍された事業についてなど貴重なお話を沢山聞くことができました。

お話のスケールの大きさに、私のような者が時間を頂戴して良い方なのか戦々恐々としてしまった事を今

でも覚えています。

しかし、最初に抱いた印象のとおり非常に気さくにお話して頂き、気づいた時には下水道の話を通り越し、ご家族の話題などプライベートな事まで話すことができていました。

この出会いをきっかけに、渡邊先生には現在に至るまで大変お世話になっています。

恐れ多くもすっかり意気投合し、研修終わりに合流した（当時講習の外部講師として招かれていた）長沼課長、佐々木健太郎先生（現：埼玉県）と共に飲みに行くこととなりました。

しかし、渡邊先生に連れて行って頂いたバーが、「浦和ロイヤルパインズホテル トップラウンジ」というかつて経験したことのない場所だったため、こんな所でも渡邊先生のスケールの大きさに圧倒されてしまいました。

恐縮しつつも、やはりお

話とお酒が盛り上がり、つい飲みすぎてしまった事を臆気に思い出しています。

今思い返すと、経験不足ゆえの過ちと言うべきか、もう少しわきまえて行動しなさいと恥ずかしくなる気持ちでいっぱいです。

実は、同じような失敗をこれから2回ほど繰り返すこととなります。渡邊先生と飲むとついお酒が進み、限度を超えて飲みすぎてしまうようです。

失敗談の続きとしまして、当時飲みすぎてしまい、帰りの新幹線ホーム（大宮駅）で迷子になるという珍事件を起こしてしまいました。

心配し、付き添って頂いた渡邊先生と佐々木先生には最初から最後まで、ご迷惑をおかけしてしまう形となったのが今でも心苦しい限りです。

色々な意味で、貴重な社会経験を積ませて頂く事ができました。

しかし、この時の飲み会をきっかけに、渡邊先生とは岩手県を中心に度々飲み会をご一緒させて頂けるようになりました。紹介してくださった長沼課長には感謝が尽きません。

また、渡邊先生との出会いを通し、様々な方々と知り合う事が出来ました。これもまた「みずのわ」の一つだと考えます。

そんな私の「みずのわ」の中心である渡邊先生とは、令和2年2月を最後にお会いできておりません。前述した新型コロナウイルス感染症拡大のため、県外の方との交流がめっきり少なくなってしまうました。

飲み会や研修といった大人数で集まる行事なども自粛する状況が続いており、未だ終息が見えていない状況です。

研修所では、少人数制にしたり、消毒を徹底したりと「みずのわ」を絶やさぬようご努力されていると聞

いております。
ワクチン接種も進んでおり、最近は感染者数も落ち着いてきているようです。
また以前のように、岩手

県で渡邊先生を中心に「みずのわ」を繋ぐことが出来る日が来ることを願いつつ、私も挫けず下水道事業に尽力したいと思えます。

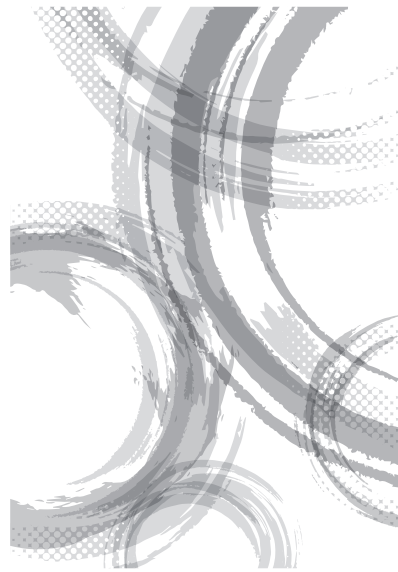
最後になりますが、日本下水道事業団研修センターの今後益々のご発展と研修生皆様のご健康を心から祈り申し上げます。

事業団研修の思い出

神奈川県箱根町環境整備部
上下水道温泉課浄水センター

所長 内藤 浩一

(H7・H21年度生)



箱根町上下水道温泉課浄水センターの内藤と申します。

この度は、「研修みずのわ」への執筆依頼、誠にありがとうございます。文才

のない私のようなもので事足りるのか非常に不安ですが、今後依頼を受けた研修生の方々が「こんな文章でもいいなら受けてみようか」と思っていただけばかと思ひ、寄稿させていただきました。

11月の初旬に出先から戻ると自席に1通のメモが、「下水道事業団、渡邊様から電話がありました。再度ご連絡いただけるそうです。」とのこと、取り急ぎ名刺の束をひっくり返し、渡邊先生にご連絡すると、あのお元気なお声で「おー、久しぶり。お元気ですか?」との挨拶会話の後「実は、あなたに原稿の執筆をお願いしたいんだよ。」との本題が、もちろん渡邊先生とご縁のある研修生の多くの方々が感じるであろう、あ

る種の念を感じお引き受けさせていただきました。
箱根町につきましては神奈川県最西部に位置し、ほぼ全町が富士箱根伊豆国立公園に指定され、豊かな自然と文化遺産等により多くのお客様に足を運んでいただいている観光地です。
下水道事業につきましては、芦ノ湖とすすきの原を処理区域に有する第2号。箱根大文字焼の山を眺める位置に終末処理場を有する第1号。町の玄関口である箱根湯本地区を処理区に有する第3号。以上の3事業となります。

さて研修についてですが、私は2回事業団研修を受講させていただいており、1回目「維持管理Ⅰ」、2回目「維持管理Ⅱ」、2回目「排水対策」両研修ともに10日間の研修日数であったと記憶しております。しかし「何年度に受講?」となるとかなり以前の受講であったが故、漠然としており、「1回目は確か長男が生れて間なしかつたから、平成7年度か8年度?」「2回目は4男が生れたと渡邊先生に報告した覚えがあるから、平成16年度か17年度?」とはつきりしない。受講内容と結果は、入庁以来34年間のうち、下水道畑31年という私の基礎となり日々の業務の支えとなっているものであり、今日まで無事に処理場を管理してこれたことが証と感謝しております。しかし、思い出として浮かぶのがお土産に買った箱根のおまんじゅうを家に忘れ、「新宿で東京〇〇〇を買って持って行ったなあ」等の他愛のない出来事や部屋での会話であるという事は、私の頭が〇〇たのか。研修生活の間、センターの先生方をはじめ職員の方々、そして同期研修生の皆さんが自然に接してくれたおかげで、日々の生活同様にリラククスして研

修に臨んでいたかのどちらかではないでしょうか。個人的には後者であると感じ感謝したいと思います。

近年の異常ともいえる災害の多さやコロナ禍等の逆境に直面し、辛い時も「自分だけが苦しいんじゃない、もっと大変な状況でも頑張っている人もいる」と踏ん張る力をもらえていることも研修に参加し、多くの方々と接したことによる財産であると感じています。

最後になりますが、今回の機会を与えてくださった渡邊先生、栗田先生に感謝いたしますとともに、両先生をはじめ、講師の皆様、研修センターをはじめ事業団の皆様、同期研修生の皆様、そして下水道事業に携わる皆様方のご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。

日本下水道事業団創立50周年を迎えるを祝して 「もっと大きなみずのわへ」

岐阜県瑞穂市環境水道部

下水道課長 工藤 浩昭

(H16・H17・H21・H25・H31年度生)



特任教授の人脈の広さや人間力に感銘を受けたものです。こうやって、「みずのわ」が広がっていくんだと感じました。

10年程前から、下水道の自治体職員が減少していく中で、中小の自治体では、自治体内で技術や経営のノウハウを伝承していくことは非常に難しい状況です。そんなことから、事業団研修は下水道事業を持続させていくために必要な存在であると思っています。特に戸田研修で寝食を共にして学ぶ研修では、研修生どう

し、始めて参加した研修のコース担当は現在の渡邊特任教授で、なんと気さくで熱心な人だなと思ったことも思い出します。その後、戸田研修を3回受講し、過去に1度だけ開催された名古屋での宿泊研修にも参加し、計5回の宿泊研修で渡邊特任教授には3回のコース担当をしていただきました。その度に、渡邊

令和四年度には、日本下水道事業団創立50年を迎えられるとのこと、誠におめでとございます。心よりお祝い申し上げます。その間、下水道の発展にご尽力されてきた事業団職員の方々や研修センターで技術者育成に関わってこられた方々には敬意を表します。私が初めて、事業団研修に参加させていただいたの

は、平成9年5月でした。初めての研修で19日間という長期間の「実施設計コース管きよI」を受講することになり、その4月に転職したばかりで1か月しか経っていない中で長期間の研修は不安でいっぱいでした。転職したばかりの私は、なんのことかわからないまま研修に参加することになりましたが、開講コンパから始まって、研修生どうしの毎夜の意見交換で、すぐに研修に馴染んでいったことを思い出します。研修というより研修生に馴染んでいった方が正しいかな

また、始めて参加した研修のコース担当は現在の渡邊特任教授で、なんと気さくで熱心な人だなと思ったことも思い出します。その後、戸田研修を3回受講し、過去に1度だけ開催された名古屋での宿泊研修にも参加し、計5回の宿泊研修で渡邊特任教授には3回のコース担当をしていただきました。その度に、渡邊

の熱心な意見交換、それから授業においてはディスカッションで本に書いていない実情を聞くことができ、その後の業務に多くのことが生かされています。昨今は、下水道事業への逆風が吹いていると感じることが多いですが、そのような経験や研修での繋がりが業務に対するモチベーションの確保に繋がっている気

もします。戸田研修には、そんな想いもあって、新たに下水道課に配属された職員には、必ず戸田研修に参加してもらっています。しかし、昨年戸田で研修を受講した職員からは、新型コロナウイルスの影響で、授業が終了したあとの意見交換ができなかったと聞いています。戸田研修での一番の特徴である意見交換ができない状況は非常に残念です。この状況が収束し、以前のような研修の風景が早く戻ってくることを願っています。

さて、私のまちは5万5千人の小さなまちですが、管きょIの研修を受講してから現在まで約25年間下水道事業に携わってきました。そんな中で、令和2年4月から単独公共の新規処理区に着手し、新たな管路整備や処理場建設に向け悪戦苦闘している日々です。経営や維持管理の時代といわれている中で、新規処理

区の課題は山積ですが、戸田のみならず加藤教授の地方研修で得た知識や経験を活かし、日々の業務に取り組んでいます。

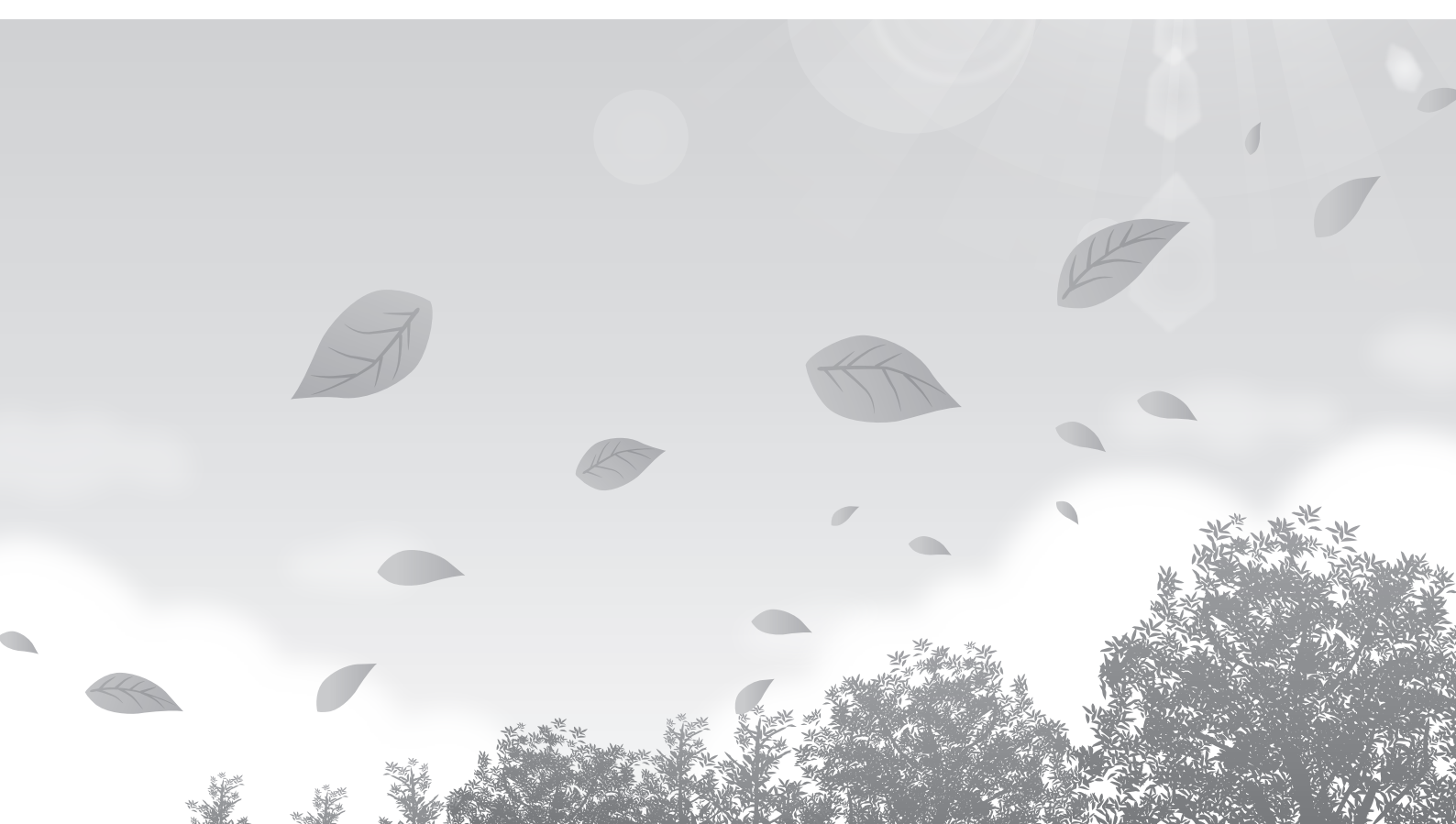
最後にになりますが、日本の課題は山積ですが、戸田のみならず加藤教授の地方研修で得た知識や経験を活かし、日々の業務に取り組んでいます。

下水道事業団の益々の発展と事業団研修での「みずのわ」がより大きく広がっていくことを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



平成9年度 実施設計コース・管きょI(第1回)専攻 開講式

H9.5.13集合写真



特集

子宝神社の
命名について

「子宝神社」命名ストーリー



宮城県松島町教育委員会教育課

学校教育班長 大宮司

綾

(H16・H17年度生)

この度は、「研修みずのわ」第55号の発刊、誠にありがとうございます。

お読みいただいた方もいらっしゃるかもしれませんが、私は前号の「研修みずのわ」第54号にも寄稿させて頂いた者でございます。前号の寄稿依頼をいただいた際には、「又とない貴重な機会なので」と思ってお受けし、拙い文章を書かせていただきました。が、再び来ることはないだろうと思っていた寄稿のご依頼が再び私の元へ！予想外のことに動揺しながらも、僭越ながらまた筆を

執らせていただくことをお許しください。

今回のテーマは「子宝神社」の命名ストーリー。日本下水道事業団研修センターの研修生OBの皆様ならよくご存知の特任教授であられます渡邊良彦大先生に対して、あろうことか「子宝神社」と命名してしまったのがこの私です。今思えばなんと失礼なことを、と反省しきりですが、この度渡邊良彦先生ご本人から直々に、その命名ストーリーについての寄稿のオファーをいただいたことで、渡邊先生が好意的に受

け取ってくださいだったと知り、胸を撫でおろしております。

本町の研修生OBの諸先輩方から、「事業団研修に行ったら渡邊先生へのご挨拶は欠かさぬように」と指導があり、研修センターの職員室の扉をドキドキしながら叩き、笑顔で迎えていただいた渡邊先生にご挨拶して以来、15年以上お世話になっております。先生とお話するなかで、私の娘と先生の娘さんが同い年だと聞いて驚き！さらにその娘さんは先生の5人目のお子様だと聞いてまた驚愕！

毎年頂戴するお年賀状は5人のお子様のお姿で、幸せオーラ満載です。実は、宮城県・山形県・福島県の研修生OBで結成されている「宮山福会」で先生にお会いした際に、先生のハッピーオーラにあやかりたい

私は、お酒の力も相まって、「子宝神社様☆」とつぶやき手を合わせたというわけです。それから私は渡邊先生に宮山福会でお会いする度に、いつも朗らかで、お元気で、クリエイティブな先生への敬意の表れとして、先生に向けて手を合わせて

拝んでおりました。その後、宮山福会に参加すると、仲間の話題の中でお子さんがお産まれになったとの報告を耳にする機会も増えました。渡邊先生にお伺いしたところ、先生とご縁がある方々で、子宝に恵まれたとの報告があちこちで聞かれるということ、

「子宝神社」だなんて何気なく命名した私でしたが、今や「看板に偽り無し!」。渡邊先生に手を合わせて家族が増えたという幸せエピソードがたくさんあるそうです。それらのエピソードについては、是非他の方々の投稿



をお読みになって、そのパワーをご確認くださいませ。

これは、神がかつていたりとか、スピリチュアルだとかそういうことを書きたい訳では決していないのです。私の苗字もそれらしい雰囲気醸し出し、勘違いなさる方もいらっしゃるかもしれませんが、私はそのような

なパワーは全く持ち合わせておらず、「楽しいことが好き」な人間なだけです。で悪しからず。万が一、その筋の方々がお読みになった場合は何卒ご容赦くださいませ。渡邊先生とご縁がある全国の皆さんが「子宝神社」になぞらえて、家族が増えた喜びを伝え合い、みんなで祝福し合う雰囲気

に私自身も幸せを感じています。まさしく幸せの連鎖ですね。人生は刹那な出来事にも一つ一つに意味づけすること、楽しく、そして幸せや喜びが深いものになるものだと思います。前号の投稿にも書きました。私の好きな言葉は「袖触れ合うも多生の縁」です。渡邊先生のおかげで、私も

全国にファミリーができたような気持ちになっております。ありがとうございます。

日本下水道事業団も令和4年度に50周年の節目の年を迎えるとお伺いしました。これからも、「みずのわ」が広がって、栄養を蓄えた枝葉が広がり、研修所のファミリー・ツリーは末広がりに大きくなり大木に育つことと信じております。事業団研修生のゴッドファーザーであります渡邊良彦先生には是非、これからもお元気に、特任教授として、そして「子宝神社」として（笑）、様々な事をご教授くださいませ。いつも感謝しております。

1月発行とのことですので、松島湾から昇る初日の出のお写真を皆様にお届けいたします。皆さまもくれぐれもご自愛くださいませ。乱筆乱文、失礼いたしました。



特 集

子宝神社と研修生のめぐり逢い

事業団のタモリさんとの出会い

北海道北見市上下水道局下水道課

計画係長 齊藤 裕子

(H23年度生)



この度は、「研修 みずのわ」第55号の発刊、そして来年度は事業団創立50周年、誠にありがとうございます。渡邊良彦特任教授から直々に執筆依頼をいただいたこと、またお電話で久しぶりにお話しできたことを大変光栄に思います。私は、下水道課に配属さ

れ2年目の平成23年11月に「管渠設計Ⅱ」を受講させていただき、その際に渡邊先生に出会いました。当時から子沢山だった(笑)渡邊先生からは、ご家族、お子様のお話しを伺うとともに、先生と出会った方(男女問わず)は、子宝に恵まれるというお話も伺っておりました。この時、タモリさんが安産祈願の神祇的存在だったのを思い出し、渡邊先生は『事業団のタモリさん』みたいだな〜とどうでもよいことを思っていた

ということを感じていました。研修から帰宅して数日後、体調の異変があり、病院を受診するとまさかの妊娠。ですが、異常妊娠でその年のクリスマスは手術・入院するという大波乱。このときは子宝神社のことなんて思い出す余裕もありませんでしたが(失礼)、これをきっかけに、やはり子供がほしいな〜と思い、妊娠を始めました。また、毎年渡邊先生への年賀状は欠かさず送り(注:決して子宝神社のためだけではありません)、年に1度ではあります。近況報告と先生の元気そうなお姿を拝見しながら、はがき越しに先生の子宝神社パワーをいただき続け、平成26年に第1子女の子、平成29年に第2子男の子を無事出産すること

ができました。

2度の産休育休はいずれも下水道課に在籍中。職場の皆様にはご迷惑をおかけしてしまいましたが、嫌な顔せず(おそらく...)取得させていただき大変大感謝しております。そして私の下水道課在籍年数も気づけば12年目となつてしまいました。

そんな折に、下水道事業団の機関誌にまさか子宝神社の話題、こんな私的な内容で執筆することになるとは思っていませんでしたが(苦笑)、今でもこうやって

依頼をしていただけると、下水道の仕事が続けられること、全てが縁であると感じております。

北海道北見市も例にもれず人口減少、少子高齢化が進んでいます。先生のように子沢山で、人口増に寄与すべきでしたが、なんとかプラスマイナスゼロとできるよう、今後も大切に育てていきたいと思えます。

また、渡邊先生の子宝パワーは間違いない!!ということ、ぜひ、子宝パワーを受け取りたい方、人口を増やしたい自治体の若手職



子宝神社と研修生の めぐり逢い

千葉県千葉市緑区役所地域振興課

くらし安心室長 石黒 栄

(H4年度生)



員をもつ上司の方は、(動機が不純ですが)事業団研修を受講する、受講させることをおすすめします！
最後になりますが、日本下水道事業団の益々のご発展と、渡邊先生はじめ研修センター職員の皆様、研修生の皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

令和4年度に、日本下水道事業団が設立して50周年という大きな節目を迎えられるとのことであり、誠にめでとうございます。また、「研修 みずのわ」につきましても、研修センター

経験を積み、「小口径泥水の設計積算・管きよⅡ」などの講師を務めるなど、生徒や講師として研修所に通わせていただき、大変お世話になりました。

その研修では、夕食後に寮の各部屋にお邪魔し、全国様々な地域の下水道事業に関わる職員と懇親会を行い、休日になると、東京や横浜方面に足を延ばし、観光や飲食をはじめ、色々な体験をするなど楽しかった思い出があります。また、講師でお世話になった際、運命的な出来事としては、今回、「研修 みずのわ」への寄稿のご依頼をいただき、現在、日本下水道事業団研修センターの「特任教授」であり、「檀原市観光PR大使」として広報活動を行っておられる、渡邊先生との出会が挙げられます。

各自自治体の下水道職員の集いである「みずのわ有志会」の新年会にお声を掛けていただき、皆さまと色々な話をするなどの貴重な機会を与えていただくとともに、多くの職員との繋がりを持たせていただきました。また、有志会は何でも話しやすいことから、当時4人のお子様がいらした先生にも、自分に子供ができないことを話したところ、「大丈夫だよ！私と出会った人は子供を授かるよ」と言われ、硬い握手をしたところ、見事、子供を授かることができました。信じられないかもしれませんが、引き続き、研修に行く同じ境遇である本市職員も渡邊先生から「お告げ」と「硬い握手」をしていただいたところ、子どもを授かることができました。その後、本市だけでなく他市にもこの話が伝わり、先生を「子宝神社」と名付けた方々がいらっしやるとのこと、全国で

も有名な話になり、お聞きしたところ、今年も九州地方の職員の方が「子宝神社」のご利益にあずかられたとのことであり、長年に渡り、先生の「お告げ」の効果が現れていることに喜びを感じ、今後、パワーを増すのではないかと予感しているところでもあります。

このような研修に纏わる話は尽きませんが、最後に執筆にあたり、日本下水道事業団の研修の思い出などについて振り返ったところ、設計積算の基礎知識を教えていただき仕事に役立てられたことに加え、全国の自治体職員とのコミュニケーションによる交流経験が自分の成長の源の一つであると気づかされました。結びに、自分の成長の手助けをしていただいたことを感謝するとともに、良い思い出を与えていただいた「日本下水道事業団研修センター」の益々の発展をお祈り申し上げます。

ターの発展とともに積み重ねられ第55号の発刊となり、とても喜ばしい限りであります。

さて、私と日本下水道事業団研修センターとのかわりは、入社2年目の平成4年に開講された「実施設計コース・管きよⅠ」での約2週間の研修に始まり、その後、本市で多種多様な下水道工事における、設計、積算、施工管理などの実務

事業団研修が繋げてくれたもの

熊本県玉名市健康福祉部保険年金課

国保年金係主任 志垣 摩美子

(H23年度生)

この度、研修会報「みずのわ」に寄稿させていただきました。このことを大変光栄に思います。

私が研修に参加したのは10年ほど前で、事務担当の私は経営コースに参加させていただきました。その際、当時の上司から渡邊良彦特任教授を紹介いただき、ご挨拶に伺ったのが最初の出会いでした。教授は技術職の担当ですが、事務職の私を歓迎していただき、研修期間のみならず気にかけていただくと共に、10年間もお付き合いいただけているのはとても有り難いことです。この様な出会いができたのも、事業団研修があっ

たからだと思いい感謝しています。

また、今はコロナの影響で難しくなっていますが、毎年熊本へ来られた際、必ず本市へ寄って頂き色々なお話をさせて頂くのも私の楽しみです。

実は私にとつての子宝神社は渡邊教授で、毎年1回の握手が子宝への願掛けとなっていました。現に教授は5人のお子様がいらっしゃり、握手をすると子宝に恵まれると噂になっていてるそうです。年1回、神社が自ら来てくれるなんて素敵な事です。

結婚後、中々子どもが出来なかつた私も、3回目の握手でようやく子どもに恵まれ、今日無事に産前休暇に入りました。ここまで来るのに中々簡単な道のりではありませんでした。今こうして我が子の胎動を感



じながら寄稿できている事に喜びを感じます。

研修が渡邊教授と出会うせてくれ、教授が様々な研修生と出会うせてくれました。そして、その出会いは

私に沢山の経験を与え、成長させてくれました。今は下水道とは全く関係のない部署にありますが、出会いや経験を生かし、仕事が出来ていると思います。

下水道事業団の研修が勉強のみならず、そのような出会いがあるのも醍醐味の1つだと思います。

人と人との出会い、めぐり逢いは不思議だと思います。

そして私事ではありますが、令和4年2月には我が子と出会うことが出来ます。私が「下水道のわ」で沢山の人の出会い、多くの経験が出来た様に、この子も「人のわ」に恵まれ育まれ、成長していつか欲しいと思います。そしていつかその「わ」が重なりまた不思議な出会いが起こるかもしれない。今後沢山の人の出会い育つて行く我が子が、その出会いを大切にしながら成長していつか欲しいと思います。

「先生と握手をすると…」

福岡県福岡市道路下水道局道路計画課

第1係長 江崎 豊

(H21・H24年度生)



この度は、研修みずのわ第55号への寄稿のお声掛けを頂き、ありがとうございます。

私が最初に研修を受講したのは、平成21年度「技術者のための下水道経営コース」でしたが、これを契機にその後「福岡みずのわ会」の幹事を数年間務めさせていただき、今も渡邊先生が福岡にお越しの際は、必ずお会いしております。いつも先生と話をしながら

ら感心させられるのが、記憶力も然ることながら「家族への愛情」です。

私は、平成25年に結婚しましたが、毎年、先生からは家族写真を見せていただきながら、お子さんの近況等をお聞きし、「なんて幸せそうな家族だろう。こんな家庭を築きたいな。」と思っていました。

そんなある日、先生との何気ない会話の流れから、「江崎さん所はお子さんはいませんか？」と聞かれ、まだですと返事をしたところ、先生から、「私と握手をする」と子宝に恵まれるんですよ、知らない？〇〇県の〇〇さんも悩んでいたけど、

私と握手をした後、妊娠が判って今は無事に出産され育休をとられていてね。おかしな話でしょ。」といったように豪快に笑われました。

ちょうどその頃、私たち夫婦は不妊の悩みを抱えていた時期でしたので、藁にも縋る思いで、先生に何回も握手を求めたのを覚えています。

その時に、治療のことやそれまで抱えていた悩みを打ち明け、先生からはアドバイスや励ましのお言葉を

たくさんいただきました。

また、この話を近くで聞いていたみずのわ会のメンバー数人も不妊治療をおこなっていることや、過去に経験したことがあることがわかり、同じ苦労をしている仲間が近くにいたことに驚かされ、それまで張りつめていた気持ちが楽になりました。

私たち夫婦は、最終的に関西にある不妊治療の専門医へ通院を重ねました。

治療には、長い時間を費やすとともに治療費も嵩み

ましたが、妻の苦労や負担は男性の私が考えるよりもはるかに大変だったと思います。

妻の妊娠が判明したのは、先生との握手から少し時間が経ってからでした。体調が安定するまではとの思いから、職場へも妊娠の報告はしていませんでしたが、先生へはお会いした際にこっそり報告をさせていただき、大変喜んでいただいたのは忘れられません。

その後、令和元年6月に、無事長男が誕生しました。私が40歳になった時の出来事です。

名前は長く待ちわびた私たち夫婦に明るく燦然と輝きながら、明るく元気に育ってほしいとの願いを込め「太陽」と名付けました。大きな怪我もせず健やかに育っており、令和4年4月からは近くの幼稚園に入园を予定しています。渡邊先生を中心に集まっ



すでにマンホールに興味津々！（福岡県柳川市にて）

た「福岡みずのわ会」は、業務内容に囚われずプライベートも含め、何でも相談しあえる関係性があり、今回も私はその仲間を支えられました。

研修センターや渡邊先生には、このような集まりを設ける機会を創っていただいたことに大変感謝しております。

今は、道路部門で整備計画策定等に携わっておりますが、いつの日かまた下水道に戻った際は、是非、下水道事業団の研修に参加したいと考えています。

今後とも、下水道事業団の研修を通じ、全国に「みずのわ」と「幸せ」が広がっていくことを願っております。



「子宝神社とのめぐり逢い」

福岡県福岡市住宅都市局九大街づくり推進部

計画調整課主任 溝口 憲太

(H23年度生)



この度、「研修みずのわ」

第55号の発刊、誠にありがとうございます。また、新たな特集である「子宝神社」と研究生のめぐり逢いに寄稿させていただくことを大変光栄に思います。

まず、渡邊先生との出会いについてですが、私は、平成23年度に事業団研修の「実施設計コース管きよの設計Ⅱ」に参加しました。研修への参加申し込み後、渡邊先生より、渡邊先生担

当のコースであること、先生と懇意にされている当時の部長によるしくとのお手紙をいただいたことを覚えています。

研修後も、年明けに福岡に來られる渡邊先生を囲んだ懇親会、「福岡みずのわ会」に毎年参加しており、引き続き先生とは親しくさせていただいております。

さて、渡邊先生が来復された際に話をすることの一つとして、先生と握手をすれば子宝に恵まれるとよく話を伺っておりました。私自身、研修を終えてからしばらくは結婚に縁がなかったため、半信半疑であり、偶然ではないだろうか

と疑っている面がありました。そのようなことを思うようなこともありながら、例年の「福岡みずのわ会」を楽しみながら月日は流れ、ついに私も平成30年

に結婚することとなりました。当然、その年度の「福岡みずのわ会」では、先生へ結婚の報告をするとも握手の話をしながら、子宝に恵まれることを期待し握手をさせてもらいました。実はその時、私の先輩もそのご利益にあやかり子宝に恵まれたのではないかとのお話も聞いております。

渡邊先生と握手をしたことを忘れていた、その年の秋ごろ、妻の妊娠が発覚しました。その際、先生と握



手をしたことを思い出し渡邊先生は本物だなと思いましたが。疑って申し訳ございません。

そして、昨年6月に待望の第一子が誕生し、今では毎日慌ただしい日々が続いており、子供の成長を楽し

しみながら子育てに奮闘しております。

「渡邊先生と握手をすれば子宝に恵まれる」という噂は本当でした。もし、子どもが欲しいと思つた際には、是非、先生と握手をしてください。

残念ながら、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、「福岡みずのわ会」は中止となり、渡邊先生をはじめ「福岡みずのわ会」の皆様とお会いすることが難しい状況となっておりますが、いつの日か可

愛我が子の自慢話ができることを楽しみにしております。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症の影響により未曾有の事態となっておりますが、このような状況のなか、感染症対

策徹底のもと研修実施にご尽力いただいている日本下水道事業団研修センターのみなさまへ感謝申し上げます。とともに、研修生のみなさまのご健闘とご活躍を申し上げます。

めぐり逢いと我が家における子宝神社の『お力』

熊本県熊本市上下水道局維持管理部

下水道維持課 太田 ひとみ

(H25・H27年度生)



渡邊先生との初めての出会いは、入庁1年目の平成25年度の事業団研修の時のことでした。私自身は、先生の講義受講生ではありませんでしたが、熊本市では、多くの職員が事業団研修を経験していることもあり、上司に言われるがままに、先生に挨拶に行ったの

が最初の出会いでした。その際は、時間がなく、少ししかお話しできませんでした。その後、再び事業団研修に行った際にお会いしたり、先生が熊本にいられた際に、先生とご縁がある県内市町村の職員が先生を囲み、集う会、みずのわ熊本会でお会いしたり

と年に1回ほど会う程度でした。先生は気さくな性格といましようか、いつもニコニコされ、話しやすく親しみやすい雰囲気をお持ちで、お会いするのをいつも楽しみにしていました。

毎年事業団研修に行かないので、渡邊先生との交流は、みずのわ熊本会





が主な機会であり、その会では、通常の業務では交流のない他市町村の職員の方と話す機会でもあるため、仕事・下水道関係にとらわれず、プライベートも含めて、様々なジャンルの話で盛り上がります。

子宝神社である先生のすごさ、『お力』を感じたのは、平成31年の『みずのわ熊本会』の時です。私たち夫婦も結婚して4年が経ち、そろそろ子どもが欲しいな、と切に願っている頃でした。

その年の『みずのわ熊本会』の会話の中で、偶然、先生の子宝神社話となり、先生と握手した人たちが、妊娠していると聞きました。我が家もその子授けにあやかることができればと思います、「男の子でも女の子でもどちらでも構いませんので、我が家にもお願いします。」と先生と握手しました。

すると、その翌月、第一子の妊娠が判明し、こんなにすぐに先生の『お力』の効果があるとは思わず、驚

きと妊娠した嬉しさに包まれました。その後は経過も順調で、その年の12月に元気な女の子を出産することができました。出産してからはコロナ禍となり、先生に直接ご報告とお礼ができませんでしたが、長女は先日2歳を迎えることができました。この場を借りて感謝とお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

そして、我が家では、先生の『お力』は長女だけにとどまりませんでした。令和3年10月に第二子である元気な男の子を出産することができました。

我が家では先生との一度の握手で長女と長男を授かることができましたが、果たして、先生と握手した後、先生の『お力』は何年ぐらいい持続効果があるのでしょうか。もしかしたら、また握手をお願いすることになるかもしれません…

先生との出逢いとその偉

大な『お力』に感謝しています。このような子宝神社の『お力』と研修生のめぐり逢いである『みずのわ』が、これからも下水道に関わるすべての方々に広がっていくことを願っています。



親子で研修

受講体験記

全国の仲間

父からの教え

宮崎県日南市建設部下水道課

副主幹

山脇

崇弘

(R3年度生)



次年度に、日本下水道事業団設立50周年を迎えられるとのこと、誠におめでとうございます。

そのような節目の年の前に、寄稿依頼があり、ありがたく思います。

今回の研修は自分にとって待ちに待った研修となりました。

それは、ある日、「もうそろそろ事業団研修のころじゃない？」と父が自分に話しかけてきました。

「もうすぐ行くけど」

と答え、父が

「自分も若いときは、渡邊先生にお世話になり、研修・講義はもちろん全国に仲間ができたよ。そして、今でも会ったら昔の話をするよ。いい研修になるといいね。」

と父から研修へ行く前に話を聞いてきました。

事業団研修は、北は北海道から南は沖縄県まで、全国から多くの自治体職員が研修に参加していました。そして、渡邊先生に初めてお会いするはずなのに、何

か懐かしい感じがしました。それは、渡邊先生が来南される際は、必ず父とお酒を酌み交わし、その話を幼少のころから聞かされていたからです。そして、ついにこんな日が来るとは夢

にも思っていました。お会いすると、父とのいろいろなエピソードを尽きることなく話され、事業団研修での出会いはほんと素晴らしいものだと実感しました。

そして、研修がスタートしました。自分は幹事とい

う大きな役をいただき、最初はどのようにまとめようかなと考えていました。そして、初日にみんなで座談会をやりました。すると、研修生全員が参加し、各々の市町村のPRや仕事の問題をどう解決しているかなど、ディスカッションを行い、初日にしてみんなの結束力が高まりました。それからのディスカッション課題、土質試験の体験など、みんなの協力でスムーズに進んでいきました。講義も各先生たちの現在の問題点や構造計算などの仕組みを改めて学ぶことができ、大変有意義なものになりました。

そして、お世話になっていく渡邊先生にみんなから、記念品を贈呈させていただきました。そのときの、渡邊先生の喜んでいる顔が忘れられません。みんなに、感謝をすることが大事であることを改めて学びました。

そして17日間の長いように短い研修を終えようとしたとき、研修での講義やディスカッション課題プレゼンはもちろんですが、何より全国に仲間ができたことは一生の宝になります。今後、どこかで災害が起きた際も支援したり、工法選定で迷ったりした際は情報交換をしたり、これからの行政生活の中ですごく大切にしたいと思います。たまには、みんなで集まり、お酒を酌み交わしいろいろな話ができる仲間でありたいと思います。

日南にも戻ったら父に、「有意義な研修になり、全国に仲間ができたよ」と報告します。

最後に、渡邊先生をはじめ各研修でお世話になりました講師のみなさま、一緒に研修を受講した最高の仲間感謝申し上げます。日本下水道事業団の発展と研修生皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。



「宮山福(みやふく)会」の 近況と今後の展望

山形県山形広域環境事務組合

管理課長 阿部 真二

(H12年度生)



私からは、日本下水道事業団の研修つながりで活動している「宮山福会(みやふくかい)」の近況等について、定期報告させていただきます。

私の報告は、平成二十六年・二十九年に続く三回目です。また、これまでも多くの方が同会について寄稿していらっしやいますので、冒頭は会の概要について、ほとんど重複しながら触れ

させていただきます。

さて同会は、関東地方、宮城県、山形県、福島県、ほか多数地域の会員からなる、事業団研修センターの渡邊良彦先生が代表を務める会、言い換えれば「渡邊先生を囲む会」でございます。私は、同会の山形県連絡員となり、はや約十年目となっております。

正式活動は、平成三年度からのようでした、途中会名変更を経て、近年は年に一度、十月中旬の金曜日に実施しております。平成三十年度は宮城県鎌先温泉にて、令和元年度は福島県母畑温泉にて、各々約二十

人規模で、遠くは京都府から参加いただき、開催したところとなっております。

両県世話人等の七ヶ浜町寺澤町長・若木様、松島町岡崎様、須賀川市安田様・青木様には、いつも調整・手配いただき、紙面をお借りして感謝を申し上げます。

また併せまして、翌日の土曜日、自由参加の二次会を、山形県月山志津温泉「仙臺屋」(別名「月山の我家」)にて、毎年十人規模で開催しているところです。

開催時期は、東北の山間の温泉地では「紅葉の盛り」、加えて月山の麓では、「キノコづくし」に巡り合えます。この「仙臺屋」での味わいは、正に旬、たまりません。

二次会の翌日等には、皆様お土産を求めて、山形県西川町の玉谷製麺所、寒河江市のアグリランド(産直)等々に寄られるのが通例のようです(私は、ごく近隣

に居住している都合上、一部のみの同行ですが)。お土産物色にも非常によい季節ですが、山形の名産「ラフランス」にはちよつと時期が早いのが、唯一残念なところです。

さて、話を令和二年度の開催に進めたいと思います。ローテーションでの山形県開催番で、十年ぶりに蔵王温泉を選定していたところでありましたが、ご多分に漏れずご時世から、中止(延期扱い)となりました。

さらに、令和三年度についても、会場選定のタイミングすら逸したまま、二次会とも中止(延期)となり、現在に至っております。

山形番で足止めが続いておりますが、「来年度こそは開催できるかも」、という世の中の雰囲気も出始めている昨今かと存じます(本稿執筆段階ではありません)。

そこで、令和四年度の「宮



山福会本体」の開催を、従来の二次会場であった「仙臺屋」で、と考えているところですが、実は、「宮山福会本体」を「仙臺屋」で開催したことは過去にもあり、それは平成二十六年、「宮山会（みやまかい）」から「宮山福会」に改名を決定した、即ち、新たに福島県勢に本格参加いただいた第一回目のごさげでした。このような区切りの機会でもあり、仕切り直し・決起集会に相応しい会場（渡邊先生の「月山の我家」です）、という思いです。只々、現時点においては、開催できることを祈るのみではありませんが、以上、甚だ簡単ではありますが、同会の近況並びに今後の展望でございまして。

最後に月並みではございますが、研修からスタートした皆様の「わ」、並びに来年度創立五十周年を迎えられる事業団様の益々の

発展をご祈念申し上げます、結びとさせていただきます。山形県会員は、引き続き募集中です。

「福岡みずのわ会」

福岡県福岡市道路下水道局建設部

東部下水道課 野口 直希

(R2年度生)



響で開催が延期となっております。そのため、この度は私の研修の思い出について、書かせていただきます。私は、昨年の事業団研修の「実施設計コース 管

りなく、渡邊先生の明るい人柄で緊張をほぐしていただいたのを今でも覚えています。また、私が入庁1年目の新人で不安そうにしていただけこともあって、常にお声かけしていただき初日から気を張ることなく研修に集中させていただいたこと大変感謝しております。

研修期間中、渡邊先生の

ことで強く心に残っていることが2つあります。1つ目としては、先生がよくご家族で行かれるという、埼玉県某所に連れいつていただいたことです。道中、私が埼玉県に来たのが初めてと話す、遠回りとかわかっていながらも乗り継ぎが必要なルートを選んでいただき、北戸田駅から各駅に停車すること、その地域の特色や魅力について話してくださいました。おかげさまで今では、職場で一番の埼玉通として名が通るまでになりました。

2つ目は、朝礼前に先生

とお話した際、お子様の写真を嬉しそうに見せてくださったことです。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、先生は子宝に恵まれているようで、子宝神社と呼ばれているそうです。私は、まだ独身ですが結婚したら真つ先に子宝神社に妻とお参りに行きたいと思っています。

次に研修内容の思い出については、開削・推進工法や立坑などを基礎から学び、後半にはシールド工事の現場研修をするなど、即実務に活かせる多くの知識や技術を学び、非常に濃い時間を過ごすことができたことです。また、三週間の研修で、業務に役立つ知識を得ただけでなく、全国の自治体の研修生の皆様と出会い交流を深めることができたことは、私にとってとても楽しく、刺激的であり大きな財産となりました。というのも、私はコロナ禍で入庁したということも

はじめに、研修会報「みずのわ」への寄稿させていただくこと、大変光栄な事であり感謝申し上げます。本来、福岡みずのわ会の近況について掲載したいところですが、昨今の新型コロナウイルスの影響

あり、同期と顔をあわせての研修や交流が限られ、仕事をやる中でどうしても視野が狭くなったり慣れた環境の中で保守的になったりしていたからです。

今回築いた全国に広がる下水道のネットワークは、一年経った今でも、公私関係なく各地の研修生から連

絡が来たり、またこちらからも他の自治体の業務を聞いたりするなど交流が続いており、今後より一層仲間との絆を深めて行きたいと思っています。

「福岡みずのわ会」には、前述のとおりコロナ禍で交流が制限されているのもあって、私はまだ参加でき



開講式

ておりません。先輩方から聞くところによりますと、この「福岡みずのわ会」は40年前から始まり、その間、福岡市が幹事となり福岡県、福岡県下水道管理センター、近年ではそれに加え福岡県内にあります直方市・小竹町・宮若市・古賀市・筑紫野市、さらには佐賀県の神崎市からも参加されているそうです。

そんな伝統ある「福岡みずのわ会」がまた再開され、末永く続いていくよう、さらには人脈を大切にされています。「みずのわ」が福岡から全国各地へ交流が広がるよう、微力ながら尽力していきたいと思えます。

最後になりますが、コロナ禍で大変な中、様々な感染症対策をしていただきながらも貴重な研修を実施して下さいました、渡邊先生をはじめとする研修所の皆様に改めてお礼申し上げます。

みずのわ熊本会

熊本県熊本市上下水道局計画整備部
下水道整備課

技術参事 木村 健士朗

(H25・H26・H28年度生)



熊本市の木村健士朗と申します。初めに今回の「みずのわ」執筆を行うこととなった経緯をお話ししますと、次のような会話がありました。

上司：「木村君、ちょっといい？」
私：「はい、何でしょうか？」
上司：「今年の『みずのわ』お願いします。」
私：「ついに来ますか！わかりました」と二つ返事でお受けしました。

冒頭にあるように研修生として4回受講し、平成28年度からは毎年1〜2回、今年度までに合計9回、研修の外部講師として従事させていただいておりますので、いつ執筆依頼がくるのかと毎年思っていました。私の下水道との出会いは



娘と川遊び



H23管きよ1 開講式



H23管きよ1 下水道展

平成23年に熊本市へ入庁した時で、それ以前は国土交通省などで道路に関する仕事をしており、まさか自分が下水道に関わるとは、全く思っておりませんでした。下水道と出会ったその年、実施設計コース「管きよ設計Ⅰ」を受講させていた

の礎となっており、渡邊良彦特任教授（渡邊先生）との出会いでした。研修では、管きよに関する基礎的な部分はもちろんですが、研修全体の記録係を任せられ、幹事、副幹事、会計の各担当と一緒に毎日の打合せ（ご指導）により研修の心得、気配り、心配りなどを教わ

りました。その後、渡邊先生が毎年2月頃に来熊され、渡邊先生を慕った熊本県内下水道職員の集まりがあるということを知りました。その集まりこそが『みずのわ熊本会』ですが、私はその会で、研修で一緒だった宇土市職員の

方、同僚の御尊父である玉名市職員の方、私の出身高校の先輩である熊本県職員の方など、参加したことによって人脈である『わ』を強く、また広くすることができました。『わ』といえば、私の最小の『わ』である家族も下水道が縁です。当時、熊本市の下水処理場な

ごを管理する課に嘱託職員として働いていた女性、色白で、品があり、美人ということでした。お節介？面倒見の良い？お姉さま（当時、私の隣の席で仕事をしていた女性）からの引き合

わせたが、周囲には内緒でお付き合いし、その後、結婚しました。渡邊先生への結婚の報告も『みずのわ熊本会』で

行い、結婚のお祝いとして、子宝神社としても有名な渡邊先生に握手していただいたことを覚えていただきます。妻は、子供を産むには高齢にあたる歳でもあり、そのことを気にしている様子。私は子供が欲しいものの、妻のプレッシャーとならないように振る舞っていました。渡邊先生に握手していただいた効果があり、その後、妻は妊娠し、娘が生まれ、今年で4歳になります。娘の成長を日々実感すること、娘と一緒に遊ぶことが忙しい日々の中の私の生きがいです。

新型コロナウイルス感染症の影響により、『みずのわ熊本会』は開催されていませんが、収束した際には、また盛大に開催できることを願っています。結びに、下水道事業団のますますの発展と下水道及び各分野で活躍されています皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



歴史探訪

第二弾

足利氏発祥の地―足利市

全国の仲間とのかけはし みずのわ

足利市は東京から北に約80kmの位置にあり、南は関東平野、北は日光連山へと続く山々がそびえる自然豊かなまちです。大正10年1月1日に市制が施行され、令和3年1月1日

で市制100周年を迎えました。人口は約14万3千人、古くから織物のまちとして栄え、昭和初期に一世を風靡した着物「足利銘仙」でも知られています。

足利市は下水道事業団とのお付き合いも古く、本社・支社への職員の派遣や研修センターへの研修生・講師の派遣と、現在までに多くの職員がお世話になっております。特に渡邊良彦先生には、研修でのご指導はもちろん、「みずのわ会」を通じた全国の仲間のみならずとの交流の機会を設けていただき感謝しております。下水道の部署を離れて20年になり

ますが、現在でも仲間のみなさんとの交流は続いています。今後もこのみずのわの繋がりを大切にしていきたいと思えます。

さて、みなさんは「足利」と聞いてどんなことを思い出すでしょうか？

室町幕府を開いた足利尊氏はみなさんご存じかと思えます。じつは、尊氏の先祖にあたる足利義康が足利の地に居を構え、源姓足利氏の歴史が始まりました。2代目の足利義兼（源頼朝の従兄弟であり、北条時政の娘を妻とする義兄弟の間柄でもあった。）によって創建された饒阿寺には、平成25年に国宝に指定された「饒阿寺本堂」や国指定重要文化財である「鐘楼」、「一切経堂」があるほか、関東地方では珍しく鎌倉時代から戦国時代にかけての建築物が数多く遺されています。



栃木県足利市
総合政策部参事（兼）
公共施設整備課長

新井 正章

(R2年度生)

また、義兼によって創建された樺崎寺は、八幡山山麓に足利氏御廟跡等の堂塔が並び、その東方の低地には浄土庭園が造られました。本殿は天和年間（1681〜83年）に再建されましたが、春日造りに似た形式で、孔雀や鳳凰などの精巧な彫刻が施されています。平成13年の国史跡指定以降、発掘調査とともに史跡の保存整備が進められており、現在は八幡山山麓建物群の整備工事と園池州浜の復原工事が完了しています。

次にご紹介するのは、日本最古の学校として知られている足利学校跡です。平成27年に日本遺産の第一号「近世日本の教育遺産群―学ぶ心・礼節の本源―」として、水戸市の旧弘道館、備前市の旧閑谷学校、日田市の成宜園跡とともに認定されました。



鍔阿寺本堂(国宝)

武將に仕え、軍師や外交官・書記官などとして活躍した者も多く、第7世席主(校長)の頃には全国から3千とも

足利学校の歴史は古く、室町時代中頃の永享11年(1439年)に関東官領の上杉憲実が、現在国宝となっている漢籍などを寄進し中興しました。最も栄えた戦国時代には、フランシスコ・ザビエルら宣教師によって、日本国中最も有名な「坂東の大学」として西洋にも伝えられました。

足利学校での基本となる学問は「儒学」でしたが、最も盛んだったのはじつは「易学」で、主に戦(いくさ)の日取りを占う学問として発展しました。このほか、「兵学」や「医学」、「天文学」などの実践的・総合的な学問を無料で教えるなど、学びの灯りを絶やすことの無いように努めたため、歴史に名を残す「日本国中最も大にして最も有名な学校」であり得たのです。足利学校の出身者は、各地の戦国

言われる学徒が集まりました。

続いてご紹介するのは、大藤で有名なあしががフラワーパークです。600畳敷の大藤棚や世界でも珍しい八重の大藤棚、長さ80mの白藤ときばな藤のトンネルなど、数百種の花が咲き乱れる花のテーマパークです。フラワーパークの代名詞でもある世界一の藤を見るために、花が咲くゴールデンウィークには1日数万人が訪れています。

また、冬の時期には日本三大イルミネーションにも選ばれた「光の花の庭」が開催されます。大藤には藤色の花房をイメージしたイルミネーションが咲き広がり、風に揺らめく様はまるで本物の様な見応えで、ここで見ることがのできないイルミネーションをお楽しみいただけます。

最後にご紹介するのは、ワインで有名なココファーム・ワイナリーです。ここには「こころみ学園」という成人の知的障害者更生施設があり、入所者は就労や生活習慣の訓練を行いながら自立を目指しています。近くの山の斜面にあるブドウ畑は、1958年に学園の川田園長が生徒たちと一緒に開墾したもので、木を切り倒して肥沃な土を運び入れ、大変苦勞してブドウを植えました。その後もブドウやシイタケの栽培を中心とした農作業をとおして、園生の心身の健康を目指した活動に取り組んでいます。



国指定史跡樺崎寺跡(八幡山と浄土庭園)

そして、1980年に園生の保護者たちが出資して設立されたのがココファーム・ワイナリーです。こちらで醸造され

たワインは次第に評判となり、「九州・沖縄サミット」の晩餐会や「北海道洞爺湖サミット」の夕食会等で採用され、ワインの評価は世界レベルにまで高まっています。

また、11月の第3土・日曜日には、ブドウ畑でワインや料理を味わう「収穫祭」が行われます。毎年多くの方が来場され、大盛況のイベントとなっています。

このように足利市には多くの歴史遺産や名所があり、まだまだご紹介したいものがたくさんありますが、紙面の都合もあり、このあたりで結びとさせていただきます。「足利」のことをもっと知りたいと思っただみなさん、魅力たっぷりの「足利」へ、ぜひ一度お越しください。

日本下水道事業団研修センターの新型コロナウイルス感染拡大予防対策について

日本下水道事業団研修センターにおきまして、研修生の皆様が研修期間中、安心・安全にお過ごしいただくために、新型コロナウイルス感染症防止策を講じておりますので、そのご紹介をいたします。

1. 施設内について

- ・施設内パブリックスペース（エレベーターフロア、研修室入口、食堂入口等）に消毒液を設置しています。
- ・施設内各所（エレベーターボタン、ドアノブ等）の高頻度接触部位の定期的な拭き取り清掃、消毒を実施しています。（なお、エレベータの表示ボタンにはカバーを貼っています。）
- ・研修センター職員、下水道事業支援センター職員、委託業務全スタッフにマスクの着用を義務付けております。
- ・コース開始前の設営時及びコース終了後に研修室の机・椅子の拭き取り清掃・消毒を実施しています。
- ・研修期間中の定期的なドアノブの拭き取り清掃や消毒を実施しています。
- ・マイク、ホワイトボード・マーカー、指し棒、講師用のパソコン等の研修用備品は、定期的な消毒を実施しています。（なお、PCのキーボードには抗菌カバーを貼っています。）
- ・教室は、窓を開けて換気を行い、また空気清浄機、扇風機等の設置により室内循環しています。

2. 研修室について

- ・研修室の収容人数は、埼玉県が定める人数上限・収容率等を基準として定員を定めます。

※収容人数の不足を補うため、必要に応じて講堂を教室として使用しています。

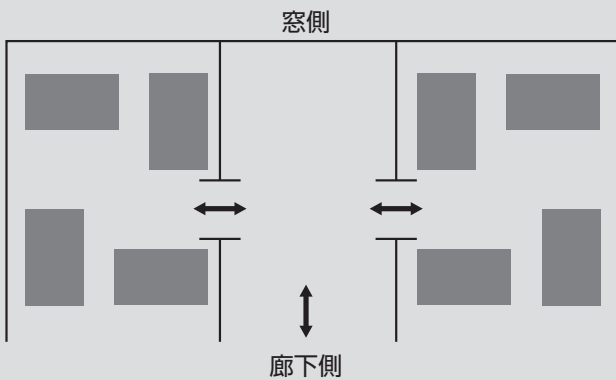
3. 管理本館棟寮室（宿泊室）について

- ・寮室の密を回避するため8人部屋に2室ある寢室に各1名の収容としています。

・コース開始前及びコース終了後に机・椅子の拭き取り・消毒を実施しています。

- ・コース開始前及びコース終了後にベッド、ロッカーの拭き取り・消毒を実施しています。

・寮室入口ドアノブの定期的な拭き取り・清掃を実施しています。



4. 談話室、体育室、喫煙室の使用禁止

- ・密な状態を避けるため談話室・喫煙室・体育室等の使用を禁止しています。

7. 研修生への依頼事項について

〔持参品〕

- ・マスクの持参（予備のマスクを含む）、マスク回収用のごみ袋、体温計、歯磨き用コップ（洗面所で使用）等

※所内の共用部分には、アルコール消毒液を用意しています。

〔研修期間中（授業中、寮生活において）〕

- ・マスクの着用の上の受講。
- ・こまめな手洗い・うがいの励行や入室時の手指のアルコール消毒、室内での咳エチケット（ティッシュなどで鼻と口を覆うなど）などの感染予防策
- ・講義室等での、マスクを外しての会話、文具の貸し借り、紙名刺の交換を控える。
- ・予め体調について確認の上、発熱、風邪の症状があるなど体調に不安がある場合には受講を控えてもらう。

8. 研修講師への依頼事項について

- ・講義日の3日前からの検温を依頼。
- ・下記に該当する場合はJSCコース担当まで連絡を依頼。

検温時、37.5℃以上の発熱が確認された場合。

「咳」、「咽頭痛」の症状がある。

新型コロナウイルス感染症陽性者との濃厚接触がある場合。

同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。

- ・講師が、当日研修センター到着時に検温を実施。

- ・講義中において、マスクの着用を依頼。

9. 所轄保健所との連携について

- ・対応策の随時確認し適切な対応をいたします。

- ・所轄保健所との状況確認と指導を仰ぎます。

- ・体調不良者が出た場合は保健所に連絡、連携を取り指示を仰ぎます。

6. 食事について

- ・研修期間中の食事は、食堂の指定した席でお願いしています。
- ・朝食・昼食・夕食ともに個別盛り（定食）スタイルにて提供しています。
- ・ホールスタッフはマスク・手袋等を着用しています。
- ・窓をあけて換気を行い、扇風機等で循環しています。





日本下水道事業団研修センターの 新寮室棟建設工事進捗状況

日本下水道事業団では、令和4年4月の使用開始に向け、新寮室棟の建設を行っていますので、その進捗状況についてご紹介させていただきます。

新寮室棟は、現状の施設の老朽化対策と研修生の様々なニーズに応えるため、平成29年に基本設計に着手、令和元年11月30日に工事着工となりました。

新寮室棟では、近年の女性研修生の増加に対応した、女性用大浴場やパウダールームの設置など生活環境の充実や寝室部の個室化、ICカードを活用したセキュリティ管理、また、集合研修でしか得られない

研修生同士の「つながり」を醸成するための多目的スペースやラウンジなど交流の場の設置など、研修生の皆様が快適に研修を受講できる環境を整えております。

充実した環境を備えた新寮室棟での研修生活のなかで、研修生の皆様が、高い研修効果を得ていただくとともに、下水道の未来を築いていく仲間とのつながりを育んでいただくことを願っております。

研修センター職員一同、新たな新寮室棟とともに、皆様のお越しをお待ちしております。



完成予想図（施設外観）



完成予想図（ラウンジ）



完成予想図（個室化した寝室部）



現在の建設状況（R3.9.29撮影）



令和4年度JS研修センター 研修計画調査等の集計結果について

研修センター 研修企画課

毎年、地方公共団体・下水道
公社等の皆様に研修に関する調
査を実施させていただき、研修
人員の把握と皆様のご意見を研
修に反映させるため研修アン
ケートを実施しております。昨
年9月に発送・ご回答いただき
ました、令和4年度JS研修セン
ター研修計画調査等の集計結果
についてご報告させていただきます。
全国2,185団体に調
査を依頼し、459団体よりご
回答をいただきました。ご協力
ありがとうございました。

1. JS研修への参加の 有無について

戸田研修889名、オンラ
イン研修648名、地方研修
102名（経営セミナー・39名、
維持管理セミナー・63名）の参
加希望のご回答をいただきました。
ご希望どおりに受講できるよ
う、調整・実施に努めてまいり
ますので、よろしくお願いいた
します。

2. 新たに実施を希望 される研修について

「下水道事業に関するDX、
SDGs、ゼロカーボンについ
ての研修」、「維持管理業務の委
託をする際の設計業務について
の研修」など幅広いご意見をい
ただきました。下水道事業を取
り巻く環境の変化に伴う、新た
なニーズに対応した研修を展開
できるよう努めてまいります。

3. JS研修の受講に よる人材育成への 効果について

JS研修の受講が人材育成を
行う上での効果について、回答
356団体のうち263団体よ
り「役に立った」、「少し役に立っ
た」とのご回答をいただき、「役
に立たなかった」との回答はあ
りませんでした。またコメント
として「令和3年度は、新型コ
ロナウイルス感染症防止のため
未受講であったが、長期に渡っ
た受講経験からすると、大いに

役立っている」、「通常の業務で
は得られない、知識や経験をす
ることができ、また、研修に集
中できる環境であるため」と
いったご意見をいただいております。

今後とも、お役に立てる研修
の企画立案・実施に努めてま
います。

4. オンライン研修の メニューの多様化 について

オンライン研修のメニューの
多様化については、106団
体より「オンライン研修のメ
ニューを充実して欲しい」との
回答をいただきました。「オン
ラインになれば旅費が不要にな
るため、より多くの職員が受講
可能になる」、「職員の他県への
移動が制限されるような状況で
も予定通り受講可能のため助か
る」といったご意見の一方で、
「参加する他の自治体職員との
交流も非常に重要であり、その
ための機会は必要であると考え

①戸田での開催が望ましい	48件
②オンライン研修+戸田研修の複合研修が望ましい	97件
③オンライン研修のメニューを充実して欲しい	106件
④いずれでも構わない	112件

るので、戸田研修との複合研修としていただきたい」といったご意見も頂戴しております。今後、戸田研修とオンライン研修についてそれぞれのメリットを活かした研修計画の立案に努めて参ります。なお、回答結果は以下のとおりでございます。

①集合研修が望ましい	95件
②オンライン研修が望ましい	93件
③いずれでも構わない	154件
④その他	15件

①戸田研修（長期研修 研修センターで実施）

5. 研修センターにおいて実施している戸田研修及び地方研修等へのオンライン研修の導入について

回答結果は以下のとおりでございます。

①集合研修が望ましい	46件
②オンライン研修が望ましい	113件
③いずれでも構わない	181件
④その他	10件

②地方研修（短期研修 外部の会議室等で実施）

ご意見として、「戸田研修のうち長期間の研修については、研修生同士の意見交換等のためにも宿泊を伴う集合研修が望ましいが、1日だけの研修などであれば、往復の移動等も考慮するとオンライン研修が合理的な場合もある」、「実技研修については集合研修での実施、座学に

ついてはオンライン研修での実施を希望します」などといったコメントを頂戴しています。皆様のニーズにお応えできるよう、研修計画の立案に努めて参ります。

6. その他ご意見・ご要望について

「技術継承のため基礎的知識の伝達の場合としての研修」、「国の施策や法改正について理解を深めるための研修」などのご意見をいただきました。研修の内容・質を確保しつつ、皆様のニーズにお答えできる研修を企画してまいりたいと考えておりますので、ご理解・ご鞭撻をお願いいたします。



令和4年度 研修実施計画

コース	専攻名	官 民 区 分	クラス	研修 期間	研修 回数	受講料 (円)
計画設計	下水道事業入門	官	初級	4	1	130,600
	下水道事業の計画の策定・見直し	官	中級	4	2	130,600
	下水道における浸水対策	官	中級	2	1	60,700
	総合的な雨水対策	官	中級	4	2	130,600
	浸水シミュレーション演習	官	特別	1	1	30,400
	アセットマネジメント・ストックマネジメント(実務編)	官	特別	4	2	130,600
	下水道事業の広域化・共同化	官	特別	3	1	119,000
	下水道事業における危機管理と災害対策	官	特別	3	1	119,000
経営	●消費税(課題解決型研修)	官	特別	3	1	132,000
	●受益者負担金(課題解決型職場融合研修)	官	特別	3	2	143,000
	●下水道使用料(課題解決型研修)	官	特別	3	1	132,000
	●経営戦略(課題解決型研修)	官	特別	3	1	132,000
	滞納対策	官	中級	4	1	130,600
	接続・水洗化促進と情報公開	官	中級	4	1	130,600
実施設計	管きよ基礎	官	初級	17	1	226,200
	管きよ設計Ⅰ	官	初級	12	4	198,400
	管きよ設計Ⅱ	官	中級(指)	17	5	226,200
	推進工法	官	中級	10	2	177,300
	管更生の設計と施工管理	官	中級	5	1	142,300
	設計照査(会計検査)	官	中級	5	1	142,300
	排水設備工事の実務	官	特別	4	1	130,600
	処理場設計Ⅰ	官	初級	5	1	142,300
	処理場設計Ⅱ	官	中級(指)	12	1	198,400
	処理場設備の設計(機械設備)	官	中級	5	1	142,300
	処理場設備の設計(電気設備)	官	中級	4	1	130,600
設備の改築更新	官	中級	3	1	119,000	
工事監督管理	工事管理	官	中級(指)	11	1	189,000
維持管理	管きよの維持管理	官	初級	12	2	189,000
	管きよの点検・調査	官	特別	5	1	142,300
	処理場管理の基礎	官	初級	4	1	130,600
	処理場管理Ⅰ	官	初級	11	3	189,000
	処理場管理Ⅰ(実習編)	官	初級	5	2	58,400
	※処理場管理Ⅱ	一部官民	中級(指)	10	2	177,300
	電気設備の保守管理	官	中級	3	1	119,000
	省エネ法入門	官	初級	1	1	30,400
	※水質管理Ⅰ	官民	初級	10	1	177,300
	※水質管理Ⅱ	官民	中級	5	1	142,300
	事業場排水対策	官	中級	10	1	177,300
	※水処理施設の管理指標の活かし方	官民	特別	2	1	60,700
※水質管理のトラブル対応	官民	特別	1	1	60,700	
官民連携・国際展開	処理場の包括的民間委託における履行確認	官	中級	2	1	60,700

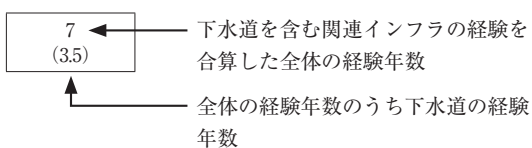
令和4年度は、宿泊施設として新寮室棟又は本館棟の2施設があり、コースにより宿泊施設する施設の違が生じるため宿泊費用も宿泊する施設により相違します。

1. 新寮室棟に宿泊する場合：受講料の他に宿泊費として1泊あたり6,500円が必要になります。なお、6,500円には食費1,770円(朝食460円・昼食570円・夕食740円)が含まれています。
2. 本館棟に宿泊する場合：受講料の他に宿泊費として1泊あたり6,000円が必要になります。なお、6,000円には食費1,770円(朝食460円・昼食570円・夕食740円)が含まれています。
3. クラス欄の初・中・特は、初級クラス・中級クラス・特別クラスを、(指)は、指定講習を示します。
4. 「官」のコースは地方公共団体職員のみを対象、「官+民」のコースは地方公共団体職員及び民間事業者を対象としたコースです。
(なお、「処理場管理Ⅱ」専攻は、第1回が「官のみ」、第2回が「官+民」となります。)
5. 各専攻とも申込者が10名を下回る場合には、開催しない場合がありますので予めご了承下さい。
6. 「処理場管理Ⅰ(実習編)」は、令和元年度、令和2年度に「処理場管理Ⅰ(講義編)」を受講された研修生のみが対象となります。
7. 記載の金額については、すべて税込み価格です。

<参考> 下水道法施行令第15条及び同第15条の3に定める資格要件

下水道法施行令第15条及び同第15条の3	(区 分)		(要 件)		資格取得に必要な下水道技術に関する実務経験年数 (注1)			
	卒業又は修了した学校等	卒業又は修了した学科等	履修した学科目等	計画設計 (注2)	監督管理等 (注3)		維持管理	
					処理施設 ポンプ施設	排水施設	処理施設 ポンプ施設	
第1号	新制大学	土木工学科、衛生工学科又はこれらに相当する課程	下水道工学	7 (3.5)	2 (1)	1 (0.5)	2 (1)	
	旧制大学	土木工学科又はこれに相当する課程	—					
第2号	新制大学	土木工学科、衛生工学科又はこれらに相当する課程	下水道工学に関する学科目以外の学科目	8 (4)	3 (1.5)	1.5 (1)	3 (1.5)	
第3号	短期大学	土木科又はこれに相当する課程	—	10 (5)	5 (2.5)	2.5 (1.5)	5 (2.5)	
	高等専門学校							
	旧制専門学校							
第4号	新制高等学校	土木科又はこれに相当する課程	—	12 (6)	7 (3.5)	3.5 (2)	7 (3.5)	
	旧制中等学校							
第5号	前4号に定める学歴のない者	—	—	—	10 (5)	5 (2.5)	10 (5)	
第6号	新制大学の大学院	5年以上在学 (卒業)	下水道工学	4 (2)	0.5 (0.5)	0.5 (0.5)	0.5 (0.5)	
	新制大学の大学院又は専攻科	1年以上在学	下水道工学	6 (3)	1 (0.5)	0.5 (0.5)	1 (0.5)	
	旧制大学の大学院又は研究科							
	短期大学の専攻科	1年以上在学	下水道工学	9 (4.5)	4 (2)	2 (1)	4 (2)	
	国土建設学院	上下水道工学科	—	10 (5)	5 (2.5)	2.5 (1.5)	—	
	外国の学校	日本の学校による学歴、経験年数に準ずる。						
	指定講習	国土交通大学校	専門課程下水道科研修	—	—	5 (2.5)	2.5 (1.5)	—
日本下水道事業団		下水道の設計又は工事の監督管理資格者講習会	—	—	5 (2.5)	2.5 (1.5)	—	
		下水道維持管理資格者講習会	—	—	—	—	5 (2.5)	
第7号	日本下水道事業団法施行令第4条第1項に定める技術検定	第1種技術検定合格	—	5 (1.5)	2 (0.5)	1 (0)	—	
		第2種技術検定合格	—	—	2 (0.5)	1 (0)	—	
		第3種技術検定合格	—	—	—	—	2 (0)	
第8号	技術士法による本試験	科目として下水道を選択し水道部門に合格した者	—	—	0 (0)	—	0 (0)	
		科目として水質管理又は汚物処理を選択し衛生工学科部門に合格した者	—	—	—	—	0 (0)	

(注) 1 表記例



<関連インフラ>

- ・計画設計及び実施設計・工事の監督管理の場合
～下水道、上水道、工業用水道、河川、道路
- ・維持管理の場合
～下水道、上水道、工業用水道、し尿処理施設

2 「計画設計」とは、事業計画に定めるべき事項に関する基本的な設計をいう。

3 「監督管理等」とは、実施設計 (計画設計に基づく具体的な設計) 又は工事の監督管理 (その者の責任において工事を設計図書と照合し、それが設計図書の通りに実施されているかどうかを確認する事。) をいう。

下水道技術検定及び下水道管理技術認定試験について

日本下水道事業団研修センター管理課

下水道技術検定とは

下水道法第22条において、下水道管理者（地方公共団体）は、下水道を設置・改築する場合の設計及び工事の監督管理並びに下水道の維持管理については、下水道法施行令で定める資格を有する者に行わせなければならぬとされています。

日本下水道事業団では、下水道法施行令に基づき資格取得のために必要な実務経験年数を短縮できる効果のある国土交通省令に定められた「指定講習」並びに「下水道技術検定」を実施しています。

同検定は、地方公共団体における有資格者の早期確保などを目的に創設された制度で、前述したとおり合格すると下水道法第22条の資格取得について必要とされる実務経験年数を短縮する特例が認められています。

この検定試験は、技術の内容に応じた「第1種技術検定」、「第2種技術検定」、「第3種技術検定」の3つの区分に分かれています。

なお、実務経験年数の短縮効果のほか、平成17年2月28日付で下水道処理施設維持管理者登録規程（昭和62年建設省告示1348号）が改正され、登録規程に基づき登録するにあたっては、第3種技術検定に合格し

所定の実務経験年数を有する者を営業所ごとに置くこととするとともに、維持管理の包括的民間委託契約においては、民間事業者側に下水道法施行令第15条の3に掲げる資格を有する技術者を置き、業務に当たらせることが必要となっています（平成16年国都下管第10号下水道管理指導室長通知）。

○技術検定の区分、検定対象、試験科目、試験方法

区分、試験科目、試験の方法については、表1のとおりです。

下水道管理技術認定試験とは

認定試験は、下水道管路施設の維持管理業務に従事する技術者の技術力を公平に判定し認証することにより、管路施設維持管理の健全な発展と技術者の技術水準の向上を図り、もって下水道の適正な維持管理に資することを目的にした制度です。

○認定試験の区分、試験対象、試験科目、試験方法

区分、試験科目、試験の方法については、表2のとおりです。

表1

検定区分	検定の対象	試験科目	試験方法
下水道技術検定	第1種技術検定	下水道の計画設計を行うために必要とされる技術	多肢選択式及び記述式
	第2種技術検定	下水道の実施設計及び工事の監督管理を行うために必要とされる技術	多肢選択式
	第3種技術検定	下水道の維持管理を行うために必要とされる技術	多肢選択式

表2

試験区分	試験の対象	試験科目	試験方法
下水道管理技術認定試験	管路施設	管路施設の維持管理を適切に行うために必要とされる技術	工場排水、維持管理、安全管理及び法規 多肢選択式

**下水道技術検定等の
実施内容**

- ・実施期日 例年、11月前半の日曜日に実施しています（令和3年度は11月14日（日））。

- ・実施場所 例年、全国11都市で実施しています（札幌市、仙台市、東京都、新潟市、名古屋市、大阪市、広島市、高松市、福岡市、鹿児島市及び那覇市）。

- ・受験資格 受験資格についての制限はなく、誰でも受験できます。

- ・その他 例年、5月中旬に試験日程や受験申込受付期間が公表されます。（令和3年度の申込受付期間は6月21日（月）から7月14日（水））。

申込方法については、平成29年度からインターネットを活用した電子申請システムを導入しており、便利に申込できるようになっています。

令和3年度の実施結果

第2種技術検定の受験申込者は1,167人、受験者は901人、合格者は297人となり、受験者に対する合格率は33.0%となりました。

第3種技術検定の受験申込者は5,718人、受験者は4,935人、合格者は1,751人となり、受験者に対する合格率は35.5%となりました。

下水道管理技術認定試験（管路施設）の受験申込者は1,788人、受験者は1,569人、合格者は610人となり、受験者に対する合格率は38.9%となりました。

なお、第1種技術検定の合格発表は、令和4年2月4日（金）を予定しています（受験申込者は125人、受験者は75人）。



（参考）第47回下水道技術検定及び第34回下水道管理技術認定試験合格基準一覧

試験区分		出題方式	出題数	満点	(令和3年度の) 合格基準点
下水道 技術検定	第2種	択一式	60問	60	42
	第3種	択一式	60問	60	43
認定試験	管路施設	択一式	50問	50	37

○技術検定及び
認定試験に関する
問い合わせ先

日本下水道事業団
研修センター管理課
電話048-421-
2076

次に、過去5年間の受験者数、合格者数、合格率をご案内します。（別表）

合格率をみますとハードルの高い検定試験かと思われるかもしれませんが、令和3年度の合格基準点を目を移してみますと、7割程度の得点で合格となっております。

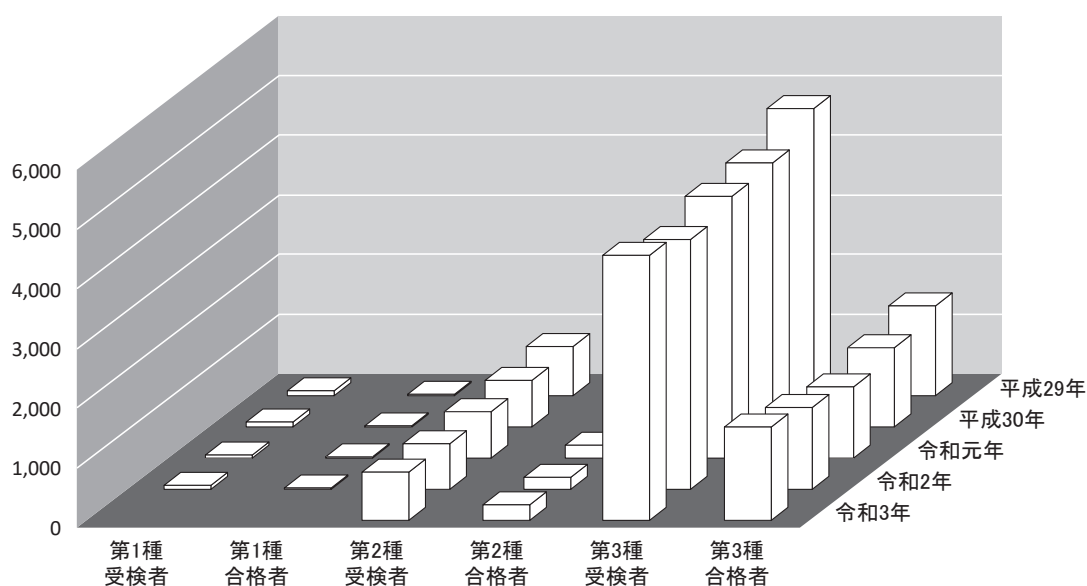
下水道業務に従事される皆様、ぜひ資格取得あるいは技術向上のために、この技術検定にチャレンジしてみませんか。



<別表>★下水道技術検定

実施年度	実施回数	第1種技術検定			第2種技術検定			第3種技術検定		
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
平成29	43	100	20	20.0	943	237	25.1	5,352	1,690	31.6
平成30	44	100	16	16.0	885	212	24.0	4,910	1,480	30.1
令和元	45	65	8	12.3	882	244	27.7	4,886	1,330	27.2
令和2	46	73	12	16.4	848	243	28.7	4,649	1,536	33.0
令和3	47				901	297	33.0	4,935	1,751	35.5

(単位：人%)

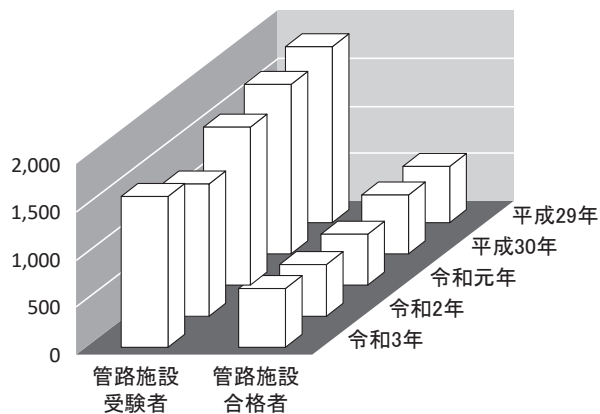


下水道技術検定

<別表>★下水道管理技術認定試験

実施年度	実施回数	管路施設		
		受験者数	合格者数	合格率
平成29	31	1,850	608	32.9
平成30	32	1,782	628	35.2
令和元	33	1,654	532	32.2
令和2	34	1,378	542	39.3
令和3	35	1,569	610	38.9

(単位：人%)



下水道管理技術認定試験

研修センターの歩み

昭和47年	11・1	下水道事業センター発足 初代研修部長 岩崎 保久就任	平成11年	4・1	第13代研修部長 大嶋 吉雄就任
昭和48年	2・6 5・ 12・27	研修部で研修開始 プレハブ校舎完成 試験研修本館着工	平成12年	6・30 7・3	研修修了生3万5千人達成 第14代研修部長 渡部 春樹就任
昭和49年	1・16 12・1	研修会報（研修みずのわ）創刊 第2代研修部長 丸山 速夫就任	平成13年	1・20 4・16	第12代本部長 中橋 芳弘就任 参与 福智 真和就任
昭和50年	3・25 4・16 8・1	試験研修本館竣工 初代試験研修本部長 池田 一郎就任 日本下水道事業団発足 第2代本部長 岡崎 忠郎就任	平成14年	4・1 11・1	第15代研修部長 篠田 孝就任 研修修了生4万人達成 事業団設立30周年を迎える
昭和51年	3・14 8・1 11・21	第1回下水道技術検定試験実施 第3代研修部長 橋本 定雄就任 第2回検定試験実施（以後毎年11月中旬実施）	平成15年	4・16 10・1	参与 色摩 勝司就任 「特殊法人整理合理化計画」に基づき、 日本下水道事業団が地方共同法人となる
昭和52年	2・16 4・1	第3代本部長 上田 伯雄就任 第4代研修部長 武田 篤夫就任	平成16年	4・1	機構改革により「研修センター」発足 第16代研修センター所長 大嶋 篤就任
昭和53年	4・1 11・16	第4代本部長 遠藤 文夫就任 常任参与 安田 靖一就任	平成17年	4・1 8・1 10・21	第17代研修センター所長 成田 愛世就任 第13代本部長 安藤 明就任 研修生4万5千人達成
昭和54年	6・9	第5代研修部長 野端 利治就任	平成19年	4・1 11・1	第18代研修センター所長 高島英二郎就任 事業団設立35周年を迎える
昭和55年	10・1	第5代本部長 卜部 壮一就任	平成20年	1・19 1・30	研修修了生5万人達成 研修修了生5万人達成記念行事開催
昭和56年	3・31	研修修了生（延べ）7,603人となる	平成21年	7・14	第19代研修センター所長 藤生 和也就任
昭和57年	6・5 11・1	第6代研修部長 伊阪 重信就任 事業団設立10周年を迎える	平成22年	4・1 4・22 6・10 8・3 3・11	第14代本部長 村上 孝雄就任 研修修了生5万5千人達成 本館耐震化工事着手 研修業務検討委員会設置 東日本大震災
昭和58年	4・1 8・29 11・16	常任参与 藤井 秀夫就任 研修修了生1万人達成 第6代本部長 中村 瑞夫就任	平成23年	4・1	機構改革により技術開発研修本部長を廃止し、 研修・国際担当理事を設置。 初代理事 村上 孝雄就任 臨時研修「地震対策」実施
昭和59年	4・12	試験研修本部を技術開発研修本部 に名称変更する。	平成24年	4・17 11・1 11・22 3・29	研修修了生60,000人達成 事業団設立40周年を迎える 臨時研修「放射能対策」実施 本館耐震化工事終了
昭和60年	1・1 3・27	第7代研修部長 真船 雍夫就任 新厚生棟完成	平成25年	4・1 11・1	第20代研修センター所長 藤本 裕之就任 第2代研修・国際担当理事 野村 充伸就任
昭和61年	10・1	第7代本部長 苦米地 行三就任	平成26年	4・1	第21代研修センター所長 花輪 健二就任
昭和62年	3・31	研修修了生（延べ）14,311人となる	平成27年	11・1	第3代研修・国際及び西日本担当理事 畑田 正憲就任
昭和63年	1・1 4・1	第8代研修部長 石川 廣就任 第8代本部長 千葉 武就任	平成28年	4・1 7・1	第22代研修センター所長 細川 顕仁就任 研修修了生70,000人達成
平成元年	9・1	常任参与 村上 仁就任	平成29年	10・4 11・1	新寮室棟基本設計着手 事業団設立45周年を迎える
平成2年	3・31 6・11	本館改修工事竣工 第9代研修部長 亀田 泰武就任	平成30年	3・16 4・1 5・22 8・21	新寮室棟基本設計完了 第23代研修センター所長 松村 弘之就任 新寮室棟詳細設計着手 研修修了生75,000人達成
平成3年	7・16 7・26	第10代研修部長 石川 忠男就任 研修修了生2万人達成	令和元年	9・27 11・1 11・30	新寮室棟詳細設計完了 第4代研修・国際担当及び東日本担当理事 畑 恵介就任 新寮室棟（仮称）着工
平成4年	4・1 4・1 11・1	第9代本部長 清野 圭造就任 第11代研修部長 星隈 保夫就任 事業団設立20周年を迎える	令和2年	2・13 4・1	研修修了生80,000人達成 第24代研修センター所長 水津 英則就任
平成5年	7・1	常任参与 北井 克彦就任	令和3年	11・1	第5代研修・国際及び東日本担当理事 渡辺 志津男就任
平成6年	7・1 10・7	第10代本部長 小林 紘就任 研修修了生2万5千人達成			
平成7年	7・5	総合実習棟竣工			
平成8年	4・1	第12代研修部長 竹石 和夫就任			
平成9年	3・20 9・29 11・1	本館改修工事竣工 研修修了生3万人達成 事業団設立25周年を迎える			
平成10年	7・14 8・1	第11代本部長 黒沢 宥就任 参与 内田 信一郎就任			



足利学校大成殿



鑊阿寺多宝塔



織姫神社



あしかがフラワーパークの大藤

栃木県 足利市



ココ・ファーム・ワイナリーのぶどう畑



織姫公園もみじ谷



足利花火大会



渡良瀬橋と夕日

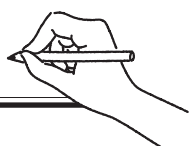
編集後記

長らく続いている新型コロナウイルスの影響も、ワクチン接種が進み、緊急事態宣言が解除されるなど、若干の落ち着きが見えてきた状況にはありますが、収束に至るまでにはまだまだ予断を許さない状況です。当センターにおいても、引き続き感染防止策を取りながら研修を実施していくことに加え、新たにオンライン研修という取り組みもスタートしました。今後とも、皆様のニーズに応えることができるよう努めて参ります。

コロナ禍においては、これまでのような交流ができない状況ではありますが、この「みずのわ」が引き続き研修生同士のつながりの一助になれば幸いです。

本号を発刊するにあたり、ご執筆をいただいた皆様には厚く御礼申し上げますとともに、これからも当研修センターの研修業務におきまして、ご指導・ご鞭撻のほど何卒、よろしくお願いいたします。

研修企画課
課長代理 三浦 英和



「みずのわ」の名前の由来

滑らかな水面に落とした一滴のしずくがつくる小さな輪が大きく広がる様から、研修生の輪が一人から全国へ、一都市から全国の都市へと大きなつながりが生まれるように、との期待を託したものです。



機関誌「研修みずのわ」 第55号

令和4年1月発行 第55号

発行 地方共同法人 日本下水道事業団 研修センター
〒335-0037 埼玉県戸田市下笹目5141
TEL 048-421-2692
FAX 048-422-3326
印刷 株式会社石井印刷